

# 令和2年度 指導案集

1. はじめに	校長	川副 博史	.....	1
2. 表現	幼稚部	久保 明日香	.....	2
3. 環境	幼稚部	船津 道子	.....	15
4. 運動（1・2・3・5・6年）	小学部	寺井 伸太郎	.....	31
5. 図画工作（3・5年）	小学部	東浦 奏子	.....	45
6. 英語（1・2年）	中学部	谷口 遥	.....	53
7. 家庭科（1・3年）	中学部	羽地 円	.....	63
8. 国語（1・2・3年B類型）	普通科	鮫島 久弥	.....	73
9. 自立活動（1・2・3年B類型）	普通科	田頭 伊織	.....	82
10. 人体の構造と機能（専攻科保健理療科1年）	理療科	福本 大輔	.....	88

大阪府立大阪北視覚支援学校

## はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、4月・5月の臨時休業、入学式の延期、体育大会の中止、夏季休業期間の短縮、修学旅行の日程・内容の変更や見直しがありました。行事関係だけではなく日常の教育活動にも様々な制限が付きましました。本当に予測もしなかった一年となりました。

一方、平成29年3月から順次公表された学習指導要領の改訂は令和2年度は小学校、3年度は中学校、高校においては4年度から年次進行で実施となります。特別支援学校は小・中・高等学校学習指導要領に合わせての実施となります。小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視すること、障がいの重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実等が基本的な考え方として示されています。

本校は、幼児児童生徒の個々の実態に応じた専門性の高い教育を行い、社会参加への力を育成することを目標に掲げています。本校では年々、幼児児童生徒数が減少傾向にあり、それに伴い、教員数も減少してきています。その中で、学校組織としての視覚障がい教育の専門性の維持・継承・発展のために、教科や重複障がい幼児児童生徒への実践と記録を重ねることが求められています。

そのような現状の中、平成29年度より「すべての教員が3年ごとに一度研究授業を実施し、授業力の向上と視覚障がい教育の継承を図る」ことを掲げ、全校を挙げて研究授業の実施に取り組んでまいりました。次年度以降も継続して研究授業を行えるよう、指導と評価の年間計画（シラバス）の作成と併せながら、体制を構築していきます。また学部を超えた各教科などでの点字や拡大教材データの共有もすすめています。

残念ながら新型コロナウイルスの影響で研究授業の回数が計画より少なくなりましたが、本冊子には、今年度実施された研究授業の学習指導案9本を収録しています。本冊子を本校教職員だけでなく多くの教育関係者に公開し、御指導、ご助言をいただくことで、さらなる本校の授業改善と視覚障がい教育の維持・継承・発展へと繋げていくことを期待しています。

皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願いいたします。

令和3年3月吉日

大阪府立大阪北視覚支援学校  
校 長 川 副 博 史

# 「表現」保育指導案

指導者	T1	久保	明日香
	T2	木村	明海
	T3	福島	律子
	T4	廣瀬	葵
	T5	船津	道子

1. 日時 令和2年〇月〇日(〇) 第2時限(9:50~10:35)
2. 対象 幼稚部3・4・5歳児 幼児6名
3. 場所 幼稚部そらの部屋
4. 活動名 「発表会をしよう」
5. 活動のねらい

- ・様々な楽器の音や名前を知り、音を鳴らすことを楽しむ。
- ・友だちと一緒に活動する楽しさを感じる。

6. 幼児の姿(生活・健康・興味・関心・人間関係等)

今年度の幼稚部は、前年度から在籍している5歳児2名、4歳児3名に、新たに3歳児1名を加えた計6名で構成され、うち弱視児2名、全盲児4名であり、知的障がいや肢体不自由を併せ有する幼児もいる。障がいの状態や発達段階は様々であり、個々に応じた配慮が必要である。また、保育所やリハビリ訓練に通う幼児もいるため、曜日や日によって登校人数が異なる。1学期は、幼児の実態に合わせ、2つのグループに分かれて活動することが多く、全員で活動する機会は少なかった。新入児は活動内容に応じてどちらのグループにも入っている。

新年度の始まりは、友だちや教師と楽しい雰囲気の中で、歌を歌ったり音楽に合わせて体を動かしたりする機会を持つようにしたことで、新入児も1学期の生活を通して幼稚部が安心して過ごせる場となり、全員が幼稚部生活を楽しんでいる。友だちや教師と言葉でやりとりをしている幼児や、発語はないが表情や動作、発声などで気持ちを表現する幼児もいる。

リズムの時間には、ふれあい遊びや手遊び、季節の歌を歌う活動を通して、音楽に親しみながら身近な人との関わりを楽しんでいる。その中で、発語がない幼児も、手や体を動かして楽しそうに声を出したり、友だちが歌っている声を聞いて嬉しそうに笑ったりして、どの幼児も音楽に関わる活動が好きである。苦手な活動であっても、歌などで楽しい雰囲気になると、教師と一緒にやってみようとする姿が見られる。楽器を使った活動では、小太鼓を簡単なリズムに合わせてたたく幼児や楽器の音が聞こえると自分から手を前に出して探そうとする幼児もいて、積極的に取り組んでいる。また、楽器の音と名前が一致しつつある幼児もいる。視覚に障がいのある幼児たちなので、普段受け身になってしまうことも多いが、楽器を使った活動では、興味を持って自分からたたいたり、振ったりして音を鳴らすことを楽しんでいる姿がよく見られる。

## 7. 活動設定の理由

楽器や音楽は、幼児にとって興味や関心を持ち、親しみやすいものである。本校の幼児たちは歌を歌うことも好きだが、手拍子や足踏みなどの動作、楽器を使うなど、歌うだけではなく、体を動かすことでより音楽を楽しんでいる姿が見られる。また、自分から友だちに話しかけに行く幼児や、教師との関わりが中心だが、少しずつ友だちにも興味を持ち始めてきた幼児もいる。そのことから、友だちと一緒に楽しく演奏する絵本『やまのおんがくか』を読み、楽器を鳴らしたり、楽器の音を聞いて音の違いを感じたりしながら、友だちと一緒に演奏することを楽しめるようにしたいと考えた。その中で、発表会を設定し、友だちの発表を聞いて楽しめる活動も取り入れる。

楽器紹介では、1つひとつの楽器を触ったり音を聞いたりし、楽器それぞれの音を知ることができるようにする。また、鈴やタンバリンなどの普段馴染みのある楽器だけでなく、木琴やギター、シンバルなどの楽器も紹介し、幼児たちの楽器への興味を広げたい。様々な楽器に触れたうえで、好きな楽器を幼児が選び、音楽に合わせて、自由なリズムで楽しく楽器遊びができるようにする。また、既存の楽器だけでなく、廃材や調理器具を使って好きな音を探しながら、自分で楽器を作ることによって、幼児たちが、作った楽器で音が鳴ったという満足感を得られるようにしたい。そして、友だちの作った楽器に対して、どんな音がするのだろうと興味を持てるように、1人ひとりの楽器紹介をする。また、発表会に向けて練習をしたり、衣装や看板に飾りつけをしたりするなどの準備の中で、友だちと一緒に工夫したり考えたりする場面も設定する。発表会では、1人ずつ自由なリズムで楽器を鳴らすことを楽しめるようにするとともに、友だちと一緒に簡単なリズムで楽器を鳴らす場面を作り、友だちと一緒に活動することの楽しさを感じられるようにしたい。

8. 活動の指導計画（全5時間、本時は第4時）

時	ねらい	主な活動内容	環境の構成と保育者の援助
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会について知る。</li> <li>・様々な楽器の音や名前を知る。</li> <li>・楽器を鳴らすことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『やまのおんがくか』を読む。</li> <li>・「山の音楽家」の歌に合わせて、楽器紹介に出てきた楽器を鳴らしたり、音を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会がどういうものか伝わるように、場面を詳しく伝えたり、表現豊かに読んだりする。</li> <li>・発表会をすることを提案し、楽器遊びに対して、意欲を高められるようにする。</li> <li>・楽器に興味をもてるように、様々な楽器を用意する。</li> <li>・音の違いや音色を感じられるように、集中して聞くように伝えたり、2つの楽器を交互に鳴らしたりする。</li> <li>・楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、必要に応じて思いを代弁する。</li> </ul> <p>準備物：絵本『やまのおんがくか』、衣装（ケープ）、鈴、カスタネット、タンバリン、マラカス、トライアングル、ウィンドチャイム、小太鼓</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な楽器の音や名前を知る。</li> <li>・音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、友だちの鳴らす楽器の音をよく聞いたりして楽しむ。</li> <li>・好きな楽器を選び、友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『やまのおんがくか』を読む。</li> <li>・「山の音楽家」の歌に合わせて、楽器紹介に出てきた楽器を鳴らしたり、音を聞いたりする。</li> <li>・好きな楽器を選び、「山の音楽家」の歌に合わせて、みんなで一緒に楽器を鳴らす。</li> <li>・楽器を換えて、「山の音楽家」の歌に合わせて、みんな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を詳しく伝えながら読み、発表会がどういうものか伝わるようにする。</li> <li>・楽器に興味をもてるように、様々な楽器を用意する。</li> <li>・楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、必要に応じて思いを代弁する。</li> <li>・友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、友だちの様子などを伝える。</li> </ul>

		<p>なで一緒に楽器を鳴らす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会には作った楽器を使うということを伝え、1、2時限目に出てきた楽器を参考に楽器作りをするように伝える。</li> </ul> <p>準備物：絵本『やまのおんがくか』、衣装（ベスト）、木琴、ギター、ギロ、ウィンドチャイム、シンバル、ボンゴ</p>
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな廃材や調理器具を選び、工夫したり、考えたりしながら楽器を作る楽しさを味わう。</li> <li>・作った楽器について、言葉や表情、動作などで表現する。</li> <li>・作った楽器を使って、音を鳴らすことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな廃材や調理器具を選び、楽器を作る。</li> <li>・1人ずつ作った楽器を紹介し、「素敵な楽器」に合わせて作った楽器を鳴らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会では、自分たちで作った楽器を使うことを伝え、楽器作りへの意欲を持てるようにする。</li> <li>・どんな楽器を作りたいか考えられるように、楽器紹介に出てきた楽器や実際に作った楽器を紹介する。</li> <li>・F児には、活動しやすいように、座位保持椅子を用意する。</li> <li>・様々な楽器を作れるように、様々な廃材や調理器具を用意する。</li> <li>・好きな音を探しながら廃材や調理器具を使って楽器を作る様子や工夫している様子を認め、楽器作りへの意欲を持てるようにする。</li> <li>・自分の作った楽器の音や鳴らし方、どうやって作ったかななどを紹介できるように、必要に応じて問いかけたり一緒に言ったりする。</li> </ul> <p>準備物：座位保持椅子、木琴、ギター、ギロ、ボンゴ、シンバル、マラカス、ウィンドチャイム、ビーズがつ</p>

			いた手袋、空き缶、空き箱、テープの芯、ラップの芯、ハンガー、ボウル、ザル、ビーズ、ビー玉、鈴、スズランテープ、布ガムテープ、両面テープ、セロハンテープ、衣装（ベスト）
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作った楽器を使って、音を鳴らすことを楽しむ。</li> <li>・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。</li> <li>・感じたことや考えたことを言葉や表情、動作などで表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「山の音楽家」の歌に合わせて、グループに分かれて、作った楽器を鳴らす。</li> <li>・衣装に飾りつけをしたり、看板を作ったりするなど、発表会に向けて準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さんが見に来ることを伝え、発表会への意欲を持てるようにする。</li> <li>・曲の中で、楽器を鳴らす箇所を伝え、その箇所を自由なリズムで楽しく鳴らして、楽器遊びができるようにする。</li> <li>・発表会には何があるとより楽しめるかを考えられるように、絵本の内容を思い出せるような問いかけをしたり、幼児の発言をみんなで共有出来るよう伝えたりする。</li> <li>・発表会への意欲を高められるように、練習や準備をしたことへの頑張りを認める。</li> </ul> <p>準備物：作った楽器、衣装（ベスト）、シールフェルト、色紙、のり、ペン、クレヨン、画板</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で作った楽器を使って、音を鳴らすことを楽しむ。</li> <li>・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。</li> <li>・楽器の音に興味を持ち、よく聞いて音の違いを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会をする。</li> <li>・楽器を紹介し、「素敵な楽器」の歌に合わせて1人ずつ発表する。</li> <li>・「山の音楽家」の歌に合わせて、みんなで発表する。</li> <li>・友だちの作った楽器を鳴らして遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで取り組んできたことを振り返り、自信を持てるようにする。</li> <li>・お客さんが来ていることを伝え、発表会に対する期待感を高める。</li> <li>・楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、必要に応</li> </ul>

			じて思いを代弁する。 ・友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、友だちの様子などを伝える。 準備物：作った楽器、衣装（バスト）
--	--	--	--

※事前に、子どもたちが作った招待状をお客さん役の教師に渡しに行く。

## 9. 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- ・自分で作った楽器を使って、音を鳴らすことを楽しむ。
- ・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。
- ・感じたことや考えたことを言葉や表情、動作などで表現する。

### (2) 幼児の実態と本時のねらい

	幼児の実態	本時のねらい	支援の手だて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3歳、弱視</li> <li>歩行不安定、知的障がい</li> <li>・聞き慣れた歌では、手拍子や足踏みをしたり、時々、歌ったりして楽しんでいる。</li> <li>・教師との関わりが中心だが、少しずつ友だちにも興味を持ち始めている。</li> <li>・様々なことに興味があり、自ら関わろうとする。</li> </ul> 【関連する自立活動の内容】 区分：環境の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保有する感覚の活用に関すること</li> </ul> 区分：人間関係の形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者との関わり基礎に関すること</li> </ul> 区分：コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器を鳴らして楽しむ。</li> <li>・ 友だちの鳴らす楽器の音に興味を持つ。</li> <li>・ 感じたことを発声や表情、動作で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、認める。</li> <li>・ 友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、教師が友だちの様子などを伝える。</li> <li>・ 表情や伝えようとしている気持ちを汲み取り、代弁して友だちに伝える。</li> </ul>

B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4歳、全盲 聴覚障がい 知的障がい</li> <li>・ 好きな歌などを楽しんでいる時に、体を動かしたり発声したりする。</li> <li>・ 近くで音などが鳴ると手を伸ばして触ろうとする。</li> <li>・ 教師との関わりが中心だが、少しずつ友だちにも興味を持ち始めている。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの基礎に関すること</li> </ul> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保有する感覚の活用に関すること</li> </ul> <p>区分：人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者との関わりに関する基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽に合わせてタイミングよく楽器を鳴らす。</li> <li>・ 友だちの鳴らす楽器の音に興味を持つ。</li> <li>・ 感じたことを発声や表情、動作で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、認める。</li> <li>・ 友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、教師が友だちの様子などを伝える。</li> <li>・ 表情や伝えようとしている気持ちを汲み取り、代弁して友だちに伝える。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4歳、全盲 週3日登校</li> <li>・ 音楽に合わせて簡単なリズム打ちができる。</li> <li>・ 友だちのことが好きで、一緒に活動することを楽しんでいる。</li> <li>・ 伝えたい思いが強く、友だちや教師の話を聞かず、話してしまう場面も多い。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul> <p>区分：人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の意図や感情の理解に関すること</li> </ul> <p>区分：コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。</li> <li>・ 友だちの楽器の音をよく聞き、よかったところを言葉で表現する。</li> <li>・ 思ったことや考えたことを言葉で表現し、友だちと一緒に工夫したり考えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちと楽しく楽器を鳴らすことができるように言葉かけをしたり、見守ったりする。</li> <li>・ 友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、教師が友だちの様子などを伝える。</li> <li>・ 本児の思いを受け止めながら、必要に応じて問いかけたり本児の発言をみんなと共有出来るように伝えたりする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関する こと</li> </ul>		
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳、全盲 知的障がい 週4日登校</li> <li>・音楽に合わせ、タイミングよく楽器を鳴らすこともある。</li> <li>・教師との関わりが中心だが、友だちに興味を持っており名前を呼ぶことがある。</li> <li>・楽器の音が聞こえると自分から手を前に出して触ろうとする。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との関わり基礎に 関すること</li> </ul> <p>区分：コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎 に 関すること</li> </ul> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚の活用に関 すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう</li> <li>・友だちの鳴らす楽器の音に興味を持つ。</li> <li>・感じたことや経験したことなどを、自分なりの言葉で表現したり、友だちや教師の問いかけに答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと楽しく楽器を鳴らせるように言葉かけをしたり、必要に応じて援助しながら見守ったりする。</li> <li>・友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、教師が友だちの様子などを伝える。</li> <li>・自分なりの言葉で表現したことを認め、本児の気持ちを友だちにわかりやすいように伝える。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳、弱視 歩行不安定</li> <li>・興味や自信のあることに関しては、積極的に発表や参加をしようとする。</li> <li>・友だちのいいところを見つけて褒めたり、親切にしたりすることができる。</li> <li>・友だちや教師の話をよく聞いている。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：人間関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう。</li> <li>・友だちの楽器の音をよく聞き、よかったところを言葉で表現する。</li> <li>・思ったことや考えたことを言葉で表現し、友だちと一緒に工夫したり考えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと楽しく楽器を鳴らすことができるように言葉かけをしたり、見守ったりする。</li> <li>・友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、教師が友だちの様子などを伝える。</li> <li>・本児の思いを受け止めながら、必要に応じて問いかけたり本児の発言をみんな で共有出来るように伝えた</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意図や感情の理解に関すること</li> <li>区分：コミュニケーション</li> <li>・言語の受容と表出に関すること</li> <li>区分：環境の把握</li> <li>・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul>		りする。
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳、全盲</li> <li>肢体不自由</li> <li>週4日登校</li> <li>・好きな歌を聞くと、笑顔になったり、箱椅子をたたいたりして、楽しさを表現している。</li> <li>・気持ちにムラがあり、集団での活動に参加できない時もあるが、身近な教師と一緒に、友だちと同じ場で活動できることが増えてきた。</li> <li>【関連する自立活動の内容】</li> <li>区分：コミュニケーション</li> <li>・コミュニケーションの基礎に関すること</li> <li>区分：人間関係の形成</li> <li>・他者との関わりの基礎に関すること</li> <li>区分：心理的な安定</li> <li>・情緒の安定に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を鳴らして楽しむ。</li> <li>・友だちや教師と一緒に活動する楽しさを味わう。</li> <li>・感じたことを発声や表情、動作で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、認める。</li> <li>・必要に応じて楽器を支えたり、一緒に持ったりしながら、音を鳴らしやすいようにする。</li> <li>・表情や伝えようとしている気持ちを汲み取り、代弁して友だちに伝える。</li> </ul>

### (3) 本時の活動の流れ

時間	活動内容	環境の構成と保育者の援助
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はじまりの挨拶をする。</li> <li>・はじまりの歌を歌う。</li> <li>○手遊びをしたり、歌を歌ったりする。</li> <li>・「チョッキンむし」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F児には、座位保持椅子を用意しておく。</li> <li>・落ち着いた環境で始められるようにする。</li> <li>・T2はA児の姿勢が崩れないように、言葉かけをする。</li> </ul>

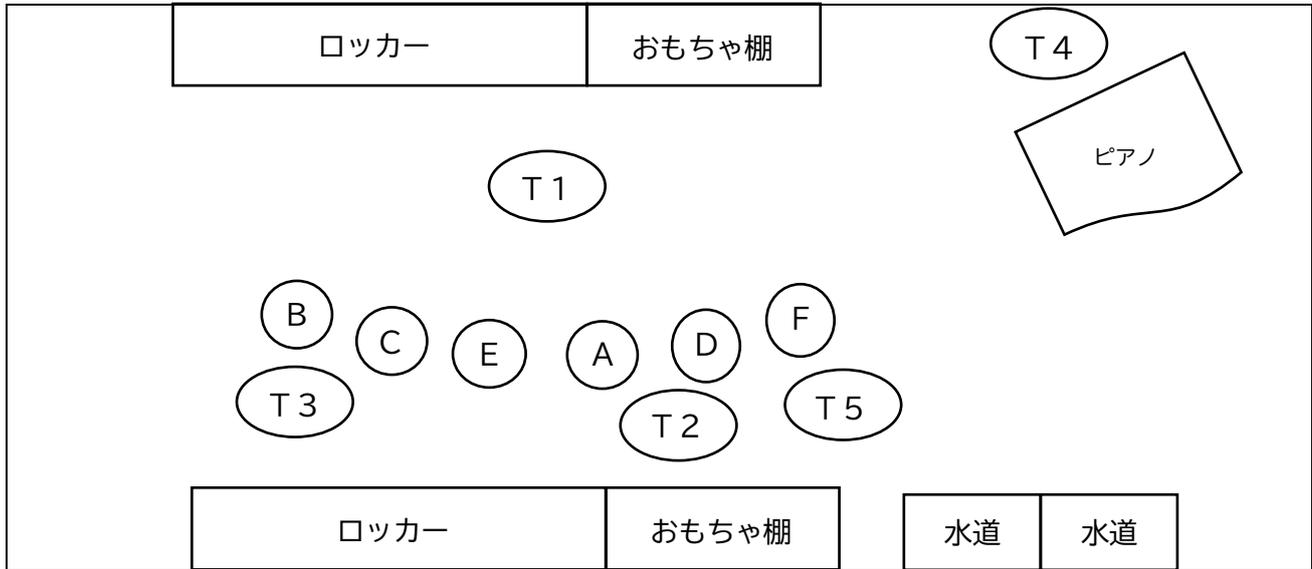
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しあわせならてをたたこう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れ親しんだ曲から始めることで気持ちを盛り上げるようにする。</li> <li>・T1～T5は、A～F児が楽しめるように、一緒に歌を歌いながら子どもたちに関わる。</li> </ul>
<p>20分</p> <p>展開</p> <p>①</p>	<p>○前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣装を身に着ける。</li> </ul> <p>○グループに分かれて、「山の音楽家」の歌に合わせて作った楽器を鳴らす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな曲で鳴らすのか、どこで鳴らすのかを確認し、作った楽器を全員で鳴らす。</li> </ul> <p>・「山の音楽家」に合わせて、作った楽器をグループに分かれて鳴らす。</p> <p>プリンググループ B児、D児、E児 イチゴケーキグループ F児、A児、C児</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F児には、活動しやすいように、座位保持椅子を用意する。</li> <li>・前時の活動を振り返られるように言葉かけをする。</li> <li>・T1が衣装（ベスト）を持ってくる。B児、D児、E児には黄色、F児、A児、C児には赤色の衣装を渡す。</li> <li>・準備物：衣装（ベスト）</li> <li>・T4が楽器を持ってくる。</li> <li>・準備物：作った楽器</li> <li>・お客さんが見に来ることを伝え、発表会への意欲を持てるようにする。</li> <li>・T4が机を2台出す。</li> <li>・誰がどんな楽器を作ったかを思い出せるように、名前を読んだら楽器を鳴らすように伝える。</li> <li>・T1が見本となり、曲の中で、楽器を鳴らす箇所を伝える。</li> <li>・自由なリズムで、楽しく楽器を鳴らせるようにする。</li> <li>・T1はC児の楽器を持ち、T2、T3、T5は必要に応じて、A児、D児、B児、F児に鳴らすタイミングを伝えたり、一緒に楽器を鳴らしたりする。</li> <li>・友だちと一緒に楽器を鳴らす楽しさを味わう姿に共感し、認める。</li> <li>・友だちの鳴らす楽器の音を聞いたり、興味を持ったりできるように、友だちの様子</li> </ul>

		などを伝える。
10分 展開 ②	<p>○発表会に向けて準備をする</p> <p>・自分の衣装（ベスト）に好きな形のシールフェルトを選んで貼る。</p> <p>・教室の扉に貼る看板に、千切ったり折ったりした色紙を貼ったり、ペンやクレヨンで絵や線を描いたりして飾り付けをする。</p>	<p>・T4は机を片づけた後、A児の支援をする。</p> <p>・発表会には、何があるとより楽しめるかを考えられるように、絵本の内容を思い出せるような問いかけをしたり、幼児の発言をみんなで共有出来るよう伝えたりする。</p> <p>・衣装の飾り付けが終わった幼児から教室の扉に貼る看板に飾り付けをするように伝え、活動に見通しを持てるようにする。</p> <p>・T1が楽器を片づけ、シールフェルト、画板を持ってくる。</p> <p>・準備物：あらかじめ様々な形に切っておいたシールフェルト</p> <p>・T1～T5は必要に応じて、A～F児が形を選んだり貼ったりするのを支援する。</p> <p>・F児は、必要に応じて、座位保持椅子から降りる。</p> <p>・教師が文字を書いた看板を用意しておく。</p> <p>・準備物：画板、文字を書いた看板、色紙、両面テープ、ペン、クレヨン</p>
5分 まとめ	○活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを発表する。	<p>・楽しかったことや頑張ったことなどを友だちに伝えることで、経験を共有できるようにする。</p> <p>・自分で考えたり、自分なりの言葉で話したりできるように、必要に応じて問いかけたり一緒に言ったりする。</p> <p>・発表会への意欲を高められるように、練</p>

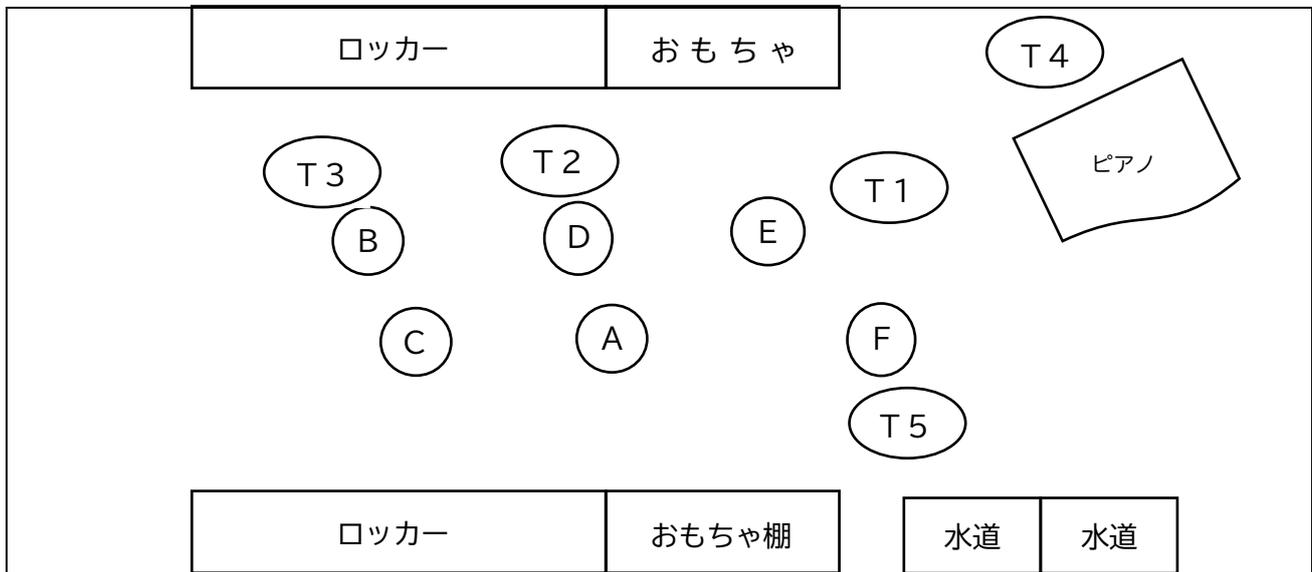
	○終わりの挨拶をする。	習したことや、自分たちで飾り付けした衣装や看板を、認める。
--	-------------	-------------------------------

※看板を貼りに行ってから、休憩する。

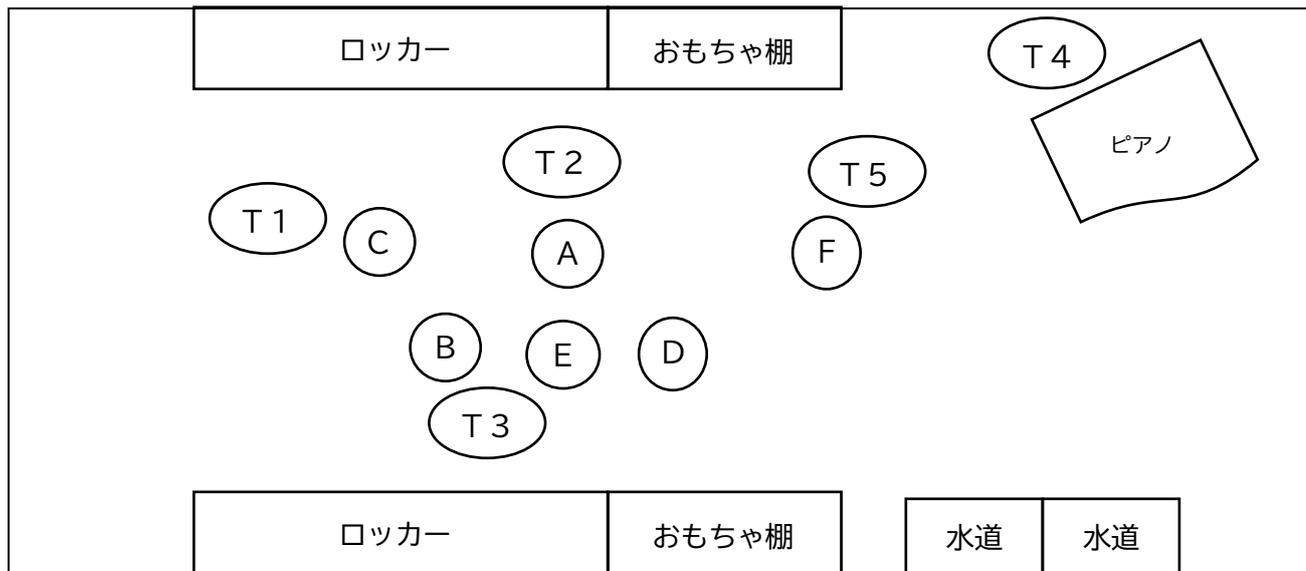
(4) 活動環境の配置等(正面を上にして、幼児や保育者の位置、教材・教具の配置等を示す)  
 〈はじまり～練習〉



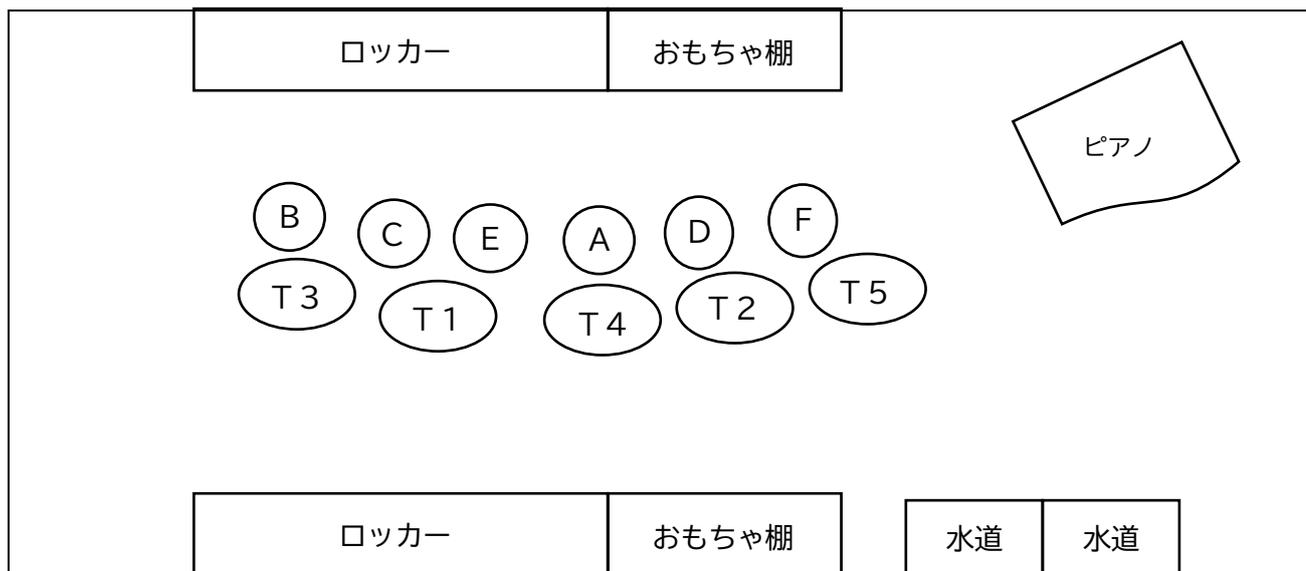
〈プリングループ発表時〉



〈イチゴケーキグループ発表時〉



〈準備～おわり〉



資料1

素敵な楽器

（「トマトたいそう」の替え歌）

〇〇くん（ちゃんの）楽器は どんな音  
 ぼく（わたし）の楽器はこんな音  
 〈楽器を鳴らす（2小節）〉  
 素敵な音が になりました

# 「環境」保育指導案

指導者T1	船津	道子
T2	廣瀬	葵
T3	福島	律子
T4	木村	明海
T5	久保	明日香
T6	岩田	美穂

1. 日時 令和2年〇月〇日(〇) 第2時限(9:50~10:35)
2. 対象 幼稚部3・4・5歳児 幼児6名
3. 場所 幼稚部そらの部屋・テラス
4. 活動名 「洗濯ごっこ」
5. 活動のねらい
  - ・洗濯の流れを知り、洗濯ごっこを楽しむ。
  - ・友だちや教師と一緒に活動し、協力して遊ぶことの楽しさを知る。
  - ・洗濯ごっこを通して、生活経験を豊かにする。

## 6. 幼児の姿(生活・健康・興味・関心・人間関係等)

幼稚部は、前年度から在籍している5歳児2名、4歳児3名、新たに3歳児1名を加えた計6名で構成される。保育所と併行通園している幼児が1名、リハビリ訓練や他の訓練機関に併行通園している幼児が3名おり、登校人数は曜日や日によって変わる。また、肢体不自由や知的障がい併せ有する幼児など実態も様々である。全盲児4名、弱視児2名で見え方の様子もそれぞれ異なる。

コミュニケーション面については、それぞれ表現方法に違いがある。言葉でやりとりする幼児やことばでのやりとりが難しく表情や動作などで表現する幼児もいるため、教師が幼児の気持ちを汲み取り、仲介役として他の幼児に伝えながら、活動を進めている。1学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、幼児の実態に合わせた2つのグループに分かれて活動することが多く、全員で活動する機会は少なかった。そのため、教師が意識してそれぞれのグループで活動した内容を幼児に尋ねたり、伝えたりすることで、幼児同士のやりとりや関わりを持てるようにした。新入児は活動内容に応じてどちらのグループにも入り、教師や在籍児との関わりを持つようにしたことで、幼稚部の生活にも慣れ、安心して活動することができている。

リズムの時間には、幼児の大好きな触れ合い遊びや手遊び、季節のうた、製作、感触あそびなどの活動をしている。その中でも、季節のものや自然物など可能な限り実物に触れる機会を多く持つようにしている。視覚に障がいがある幼児たちなので、目で見ただけでなく、手で触って感

じたり、音や匂いを感じたり、感触を確かめたりする“触る活動”や“感じる活動”を大切にしている。どの幼児も、感触遊びが好きで、楽しみながら活動することができている。

1学期の感触遊びでは、砂、泥、絵具、氷、片栗粉、寒天、水など様々な素材の感触に触れる機会を多く設定した。特に、砂や泥、水遊びは繰り返しじっくりと遊ぶ時間を確保し、その中で教師が周りの友だちの様子を伝えることで、個々の遊びに集中しがちだった幼児や教師との遊びが中心だった幼児も、友だちの遊んでいる様子に誘われて真似をしてみたり、「なにしてるの？」や「○○ちゃん、ちゃぷちゃぷしてる」など友だちの様子を気にする姿が見られ、少しずつ友だちと一緒に活動する様子が見られるようになってきた。また、友だちに教えたり、手伝ったりするなど友だちを思いやる姿が少しずつ見られる幼児もいる。異年齢で構成されているため、発達段階や課題等は様々であるが、日々の楽しい活動の中で、少しずつ友だちへの親しみをもちはじめている。

## 7. 活動設定の理由

昨年度行った「おうちごっこ」の活動の中で、「洗濯って知ってる？」という教師の問いかけに「知ってる」と答えた幼児が「ママが洗って、カバンに入ってる」と言い、話を細かく聞いていくと、洗濯という言葉は知っているが汚れた服が綺麗になるまでの過程を知らなかったということがわかった。視覚に障がいがある幼児たちなので、日常生活においていろいろなものやことに自ら関わる経験が少なくなってしまう、日常生活のものやことを知らないまま過ごしていることが多いのだと、その出来事からも改めて感じる事ができた。そのため、楽しい活動の中で実体験ができるごっこ遊びを通して、洗濯を経験させたいと考えた。

その中で普段の生活と結びつくようにしたり、“ものと言葉”が結びついたり、“言葉と経験(行動)”“思いと言葉”をつなげ、深めていってほしいと考えた。また、友だちと共通の目的を持って協力して取り組むことで“友だちと一緒に遊ぶ楽しさ”“満足感や達成感”を感じて欲しいと考えた。

そこで、洗う→すすぐ→しぼる→干す(乾かす)→たたむといった一連の流れがわかりやすく、感触や重さなどの違いもわかりやすく、子どもたちの身近にある「洗濯」を題材に取りあげることにした。子どもたちが好きな感触遊びでもあり、布が水を含んだ時の重量感、せっけんを使用することで泡立つ感触、洗う前と後での匂いの違いなどを感じられる。洗うだけでなく、干したり、乾いた後にみんなで確認して畳んだりするところまでの工程を楽しむなかで、子どもたち自身が様々なことに気付き、洗濯がどういうことをするのかのイメージを深められるように繰り返し行い、より経験を深め言葉と経験を繋げていきたい。

8. 活動の指導計画（全5時間、本時は第4時）

時	ねらい	主な活動内容	環境の構成と保育者の援助
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを楽しむ。</li> <li>・洗濯板、たらい、洗濯ばさみなどの実物に触れ、それぞれの使い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを聞く。</li> <li>・洗濯板、たらい、洗濯ばさみなど洗濯に使用するものに触れる。</li> <li>・しぼる体験をする。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現し、友だちに伝えたり、友だちの話を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「じゃぶじゃぶ おせんたく」の歌を歌いながら、楽しい雰囲気の中で洗濯に興味を持てるようにする。</li> <li>・絵本の中の洗濯で洗う、すすぐ、絞るの流れを擬音語等を用いながら表現豊かに絵本を読むようにする。</li> <li>・様々な道具に触れられるようにし、言葉だけでなく感触からも洗濯のイメージを持てるようにする。</li> <li>・じっくりと楽しめるように使い方や動作等を伝えるようにする。</li> </ul> <p>準備物：絵本2冊、たらい、バケツ、洗濯板、洗濯ばさみ、ロープ、ハンカチ</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを楽しむ。</li> <li>・教師や友だちと泡あそびを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを聞く。</li> <li>・固形石鹸を触る。</li> <li>・粉せっけんを水や様々な道具を使って泡立てる。</li> <li>・様々な容器や道具を使って、混ぜたりすくったり、手で触って楽しんだり、泡をクリームやアイス等に見立てたりして、友だちや教師とやりとりをする。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の中の洗濯で洗う、すすぐ、絞るの流れを擬音語等を用いながら表現豊かに絵本を読むようにする。</li> <li>・熱中症対策のため、テラスに行く前に水分補給、首に保冷剤やクールタオル等を幼児それぞれ巻くようにし、冷風扇も準備しておく。</li> <li>・テラスへの移動の際は安全に配慮しながら見</li> </ul>

		<p>し、友だちに伝えたり、友だちの話を聞いたりする。</p>	<p>守ったり、支援したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粉せっけんが舞わないように、粉せっけんに水を加えてから冷風扇を使用する。</li> <li>・事前に泡立てた物を用意しておき、じっくりと遊べる時間を確保する。</li> <li>・せっけん泡がついた手を口に入れたり目をこすったりしないよう、安全に配慮する。</li> <li>・泡あそびを楽しめるように、周りの幼児の様子を伝え、必要に応じて、道具の使い方や泡立て方、触り方など動作を伝えるようにする。</li> <li>・いろいろなものに見立てて楽しめるよう言葉かけをし、遊びが展開していくよう支援する。</li> </ul> <p>準備物：絵本1冊、固形石鹸、粉せっけん、洗面器、たらい、水、カップ容器、おたま、泡だて器、スポンジ、濡れタオル、乾いたタオル、水をためたバケツ、雑巾、マット、足ふきマット、シャワー、冷風扇</p>
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを楽しむ。</li> <li>・汚れたハンカチを洗い、洗濯ごっこを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『せっけん つけて ぶくぶくぷわー』のおはなしを聞く。</li> <li>・テラスへ移動する。</li> <li>・実際に汚れたハンカチを洗い、汚れ(匂い)を落とし、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の中の洗濯で洗う、すすぐ、絞るの流れを擬音語等を用いながら表現豊かに絵本を読むようにする。</li> <li>・絵本を読み、洗濯の流</li> </ul>

		<p>干す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを言葉で表現し、友だちに伝えたり、友だちの話を聞いたりする。</li> </ul>	<p>れを思い出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策のため、テラスに行く前に水分補給、首に保冷剤やクールタオル等を幼児それぞれ巻くようにし、冷風扇も準備しておく。</li> <li>・テラスへの移動の際は安全に配慮しながら見守ったり、支援したりする。</li> <li>・粉せっけんが舞わないように、粉せっけんの水を加えてから冷風扇を使用する。</li> <li>・活動で使うハンカチは、事前に汚れとして澱粉のりをつけパリパリにしたり、木酢液を薄めたものを振りかけて匂いをつけたりし、触って分かる汚れや匂いの変化が分かるようにする。</li> <li>・せっけん泡がついた手を口に入れたり目をこすったりしないよう、安全に配慮する。</li> <li>・必要に応じて、洗濯の流れを思い出せるように言葉かけをしたり、道具の使い方や洗い方などを伝えたりして、じっくりと楽しめるようにする。</li> <li>・周りの幼児の様子がわかるように、言葉かけを行う。</li> </ul>
--	--	---	---

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗い→すすぎをするときに、容器の中の水をきれいなものに入れ替える。</li> <li>・洗い終えたハンカチを干すロープの場所がわかるように、ロープに鈴をつけ、音を鳴らす。</li> </ul> <p>準備物：たらい、洗面器、洗濯板、粉せっけん、水、洗濯ばさみ、ロープ、鈴、箱椅子、洗濯ばさみ、濡れたタオル、乾いたタオル、マット、水のはいたバケツ、足ふきマット、タオル、冷風扇</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこを楽しむ。</li> <li>・友だちや教師と協力しながら1つの洗濯物を洗うことで体験を共有し、満足感や達成感を味わう。</li> <li>・感じたことや思ったこと、考えたことを自分なりの言葉で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前遊びの中でそりとして使用したバスタオルを洗濯物として、1つの物を友だちと協力して洗う。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現し、友だちに伝えたり、友だちの話を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策のため、テラスに行く前に、首に保冷剤やクールタオル等を幼児それぞれ巻くようにし、冷風扇も準備しておく。</li> <li>・テラスへの移動の際は安全に配慮しながら見守ったり、支援したりする。</li> <li>・粉せっけんが舞わないように、粉せっけんの水を加えてから冷風扇を使用するようにする。</li> <li>・活動で使用するバスタオルは、事前に汚れとして澱粉のりをつけパリパリにしたり、木酢液を薄めたものを振りかけて匂いをつけたりし、触って分かる汚れや匂いの変化が分かるように</li> </ul>

			<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泡や洗剤がついた手を口に入れたり目をこすったりしないよう、安全に配慮する。</li> <li>・他児と洗濯ごっこを楽しんだり、みんなで協力してできるように、必要に応じて、周りの幼児の様子を伝えたり、言葉かけをしたりする。</li> <li>・幼児同士がやりとりできるように、幼児たちの発言や発見、発案等を周りに知らせるようにする。</li> <li>・洗い→すすぎをするときに、容器の中の水をきれいなものに入れ替える。</li> <li>・バスタオルを干すためのロープの場所がわかるように、ロープに鈴をつけ、音を鳴らす。</li> </ul> <p>準備物：バケツ、たらい、ビニールプール、衣装ケース、洗濯板、粉せっけん、水、マット、濡れたタオル、乾いたタオル、洗濯ばさみ、ロープ、鈴、足ふきマット、冷風扇</p>
5	<p>・前時で洗濯した物(タオル)を取りこみ、触ったり匂ったりして、感じたことや思ったことを自分なりの言葉や表情などで表現する。</p>	<p>・前時に、干した洗濯物を取り込み、質感やにおいなどに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。</li> <li>・綺麗になった洗濯物を使</li> </ul>	<p>・前時で干した物がどんな質感だったかなど思い出しやすいように、濡れたタオルを準備し触ってから、乾いた洗濯物を取り入れるようにする。</p>

		って遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より発言しやすい雰囲気になるように、それぞれ感じたことや表現したことに共感し、認める。</li> <li>・安全に楽しめるように配慮する。</li> </ul> 準備物： 乾いた洗濯物、濡れた洗濯物、
--	--	-------	--

## 9. 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- ・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこを楽しむ。
- ・友だちや教師と協力しながら1つの洗濯物を洗うことで、体験を共有し、満足感や達成感を味わう。
- ・感じたことや思ったこと、考えたことを自分なりの言葉で表現する。

### (2) 幼児の実態と本時のねらい

	幼児の実態	本時のねらい	支援の手だて
A	3歳、弱視 歩行不安定、知的障がい ・様々なことに興味があり、自ら関わろうとすることが多い。 ・教師との関わりが中心であるが、少しずつ友だちにも興味がでてきている。 ・みんなの前では恥ずかしがり言葉を発することは少ないが、1対1の時など人が少ない場面では、簡単な言葉を発することができる。 【関連する自立活動の内容】 区分：環境の把握 ・保有する感覚の活用に関すること 区分：人間関係の形成 ・他者とのかかわりの基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこの楽しさを味わう。</li> <li>・教師や友だちを見て、真似ようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの友だちの様子に気づけるように言葉かけをしたり、必要に応じて動作の方法を支援したりする。</li> <li>・できたことを共感し認めて、満足感を味わえるようにする。</li> </ul>

	<p>に関すること</p> <p>区分：コミュニケーション</p> <p>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</p>		
B	<p>4歳、全盲</p> <p>聴覚障がい、知的障がい</p> <p>・手の届く範囲にある興味のあるものには手を伸ばして触ろうとする。</p> <p>・1つの活動に集中し続けることが難しいが、興味を持つと進んで活動に参加し楽しむことができる。</p> <p>・教師との関わりが中心だが、教師を介して友だちと関わるができる。</p> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <p>・保有する感覚の活用に関すること</p> <p>区分：人間関係の形成</p> <p>・他者とのかかわりの基礎に関すること</p> <p>区分：コミュニケーション</p> <p>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</p>	<p>・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこの楽しさを味わう。</p> <p>・洗濯ごっこの中で好きな活動を見つけ、自分で手や指を動かしたり、擬音語を真似たりする。</p>	<p>・友だちと一緒に楽しめるように周りの友だちの様子を伝えたり、必要に応じて動作を支援したり、言葉かけをしたりする。</p> <p>・楽しく活動ができるように、場に合わせた楽しい歌を取り入れる。</p> <p>・できたことを共感し認めて、満足感を味わえるようにする。</p>
C	<p>4歳、全盲</p> <p>(週3日登校)</p> <p>・様々な活動に興味があり、意欲的に参加し、感じたことや分かったことなどを積極的に発表することができる。</p> <p>・自分の思いが強く、一方的に話してしまう場面も多いが、友だちのことが好きで一緒に活動することを楽しむことができる。</p> <p>・教師の話や絵本などの話</p>	<p>・洗濯の流れを理解し、友だちと一緒に洗濯ごっこを楽しむ。</p> <p>・友だちと共通の目的を持ち、工夫したり、協力したりする楽しさを味わう。</p>	<p>・友だちと一緒に楽しめるように周りの友だちの様子や友だちの発言や発見、発案などを伝えたり、必要に応じて動作を支援したり、言葉かけをしたり、問いかけたりする。</p> <p>・友だちと協力できるように必要に応じて、幼児の気持ちを受けとめ共感しながらも、周りの友だちと話し合っで決めるように促す。</p>

	<p>をよく聞いており、経験を言葉で表現すること、また、聞いたことからイメージを膨らませている。</p> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul> <p>区分：人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意図や感情の理解に関すること</li> </ul> <p>区分：コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できたことを共感し認めて、満足感・達成感を味わえるようにする。</li> </ul>
D	<p>4歳、全盲 知的障がい（週4日登校）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある物には、自ら手を伸ばし触ろうとする。</li> <li>・友だちに興味があり、教師を介して簡単なやりとりをすることができる。</li> <li>・興味を持っていることや直接経験したことなど、印象深いことは自分なりの言葉で表現することができるようになってきている。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚の活用に関すること</li> </ul> <p>区分：人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかかわりの基礎に関すること</li> </ul> <p>区分：コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこを楽しむ。</li> <li>・感じたことを自分なりの言葉で表現したり、友だちや教師の問いかけに答えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に楽しめるように周りの友だちの様子や友だちの発言や発見、発案などを伝えたり、必要に応じて動作を支援したり、言葉かけをしたりする。</li> <li>・自分なりの言葉で表現したことを共感し認めながら、本児の気持ちを教師が周りの友だちにわかるように伝えるようにする。</li> <li>・できたことを共感し認めて、満足感を味わえるようにする。</li> </ul>

E	<p>5歳、弱視 歩行不安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての事などにも積極的に楽しんで取り組むことができる。</li> <li>・自ら友だちに関わろうとし、年下の友だちを気遣い世話をしたり、友だちに順番等を譲ったりするなど優しい姿がみられる。</li> <li>・発表などで緊張や不安を感じる様子が見られることもあるが、興味や自信のあることには積極的に発表することができる。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul> <p>区分：人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意図や感情の理解に関すること</li> </ul> <p>区分：コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯の流れを理解し、友だちと一緒に洗濯ごっこを楽しむ。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現し、友だちに伝え、やりとりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、周りの友だちの様子や友だちの発言や発見、発案などをわかるように伝えたり、言葉かけをしたりする。</li> <li>・幼児の思いを受け止め共感し認めながら、周りの友だちに聞こえるように伝えることを促す。</li> <li>・できたことを共感し認めて、満足感・達成感を味わえるようにする。</li> </ul>
F	<p>5歳、全盲 肢体不自由、知的障がい (週4日登校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手の届く範囲に提示した物に対しては、なんでも手を伸ばし触ろうとする。</li> <li>・教師との関わりが中心ではあるが、友だちと同じ場で活動することもできる。</li> <li>・顔の表情や声色、身体の動きなどで気持ちを表現する。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちや教師と一緒に洗濯ごっこの楽しさを味わう。</li> <li>・洗濯ごっこの中で好きな活動を見つけ、自分で手や指を動かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと一緒に楽しめるように周りの友だちの様子を伝えたり、必要に応じて動作を支援したり、言葉かけをしたりする。</li> <li>・楽しく活動ができるように、場に合わせた楽しい歌や擬音語を取り入れる。</li> <li>・できたことを共感し認めて、満足感を味わえるようにする。</li> </ul>

区分：環境の把握 ・保有する感覚の活用に関する こと 区分：人間関係の形成 ・他者とのかかわりの基礎 に関すること 区分：コミュニケーション ・コミュニケーションの基 礎的能力に関すること		
--	--	--

### (3) 本時の活動の流れ

時間	活動内容	環境の構成と保育者の援助
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前に汚れてもよい服に着替えておく。</li> <li>○はじまりのあいさつをする。</li> <li>・リズムのはじまりの歌を歌う。</li> <li>○手遊びをしたり、歌を歌ったりする。</li> <li>・「こちょこちょ電車」「じゃぶじゃぶ おせんたく」</li> <li>○前回までの洗濯ごっこを思い出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりが意識出来るようにし、気持ちを活動に向けられるようにする。</li> <li>・T6がピアノを弾く。</li> <li>・親しみのある曲から始めることで、気持ちを盛り上げ活動に取り組めるようにする。</li> <li>・T1からT5は、幼児たちが楽しめるように、一緒に歌を歌ったりふれあい遊びや手遊びをしたりして幼児たちに関わる。</li> <li>・前回の内容を振り返られるように言葉をかける。</li> <li>・準備物：歌詞カード</li> </ul>
30分 展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○洗濯する物が何かを知る。</li> <li>・2つのグループに分かれる</li> <li>① A児、B児、F児</li> <li>② C児、D児、E児</li> <li>○活動場所をそらの部屋からテラスへ移動する。</li> <li>・上靴、靴下を脱ぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に幼児たち自身が遊びで使用したものを洗濯物とし、「洗わなきゃ」「洗おう」という気持ちに向くように言葉かけをする。</li> <li>・1人ではなく、友だちと協力して1つの物を洗うことを伝える。</li> <li>・T6は、熱中症予防のため首に巻くクールタオルやバンドナに保冷剤を巻き、それぞれのロッカーの上に置くようにする。</li> <li>・T1からT6は、熱中症予防のため幼児たちの首にそれぞれクールタオルや保冷剤入りバンドナを首に巻く。</li> <li>・T1からT6は、幼児たちのテラスへの</li> </ul>

○友だちと一緒に洗濯ごっこを楽しむ。  
・友だちと協力して洗濯物を“あらう”“すすぐ”“しぼる”の活動をする。

移動が安全に行えるように様子を見守りながら、必要に応じて支援する。また、介助が必要な幼児は、教師と一緒に移動するようにする。

・泡や洗剤がついた手を口に入れたり目をこすったりしないよう、安全に配慮する。  
・T1は全体の様子を見ながら、進行や2つのグループを見ながらそれぞれに言葉かけをする。

・T6は、粉せっけんが水の中に入ったことを確認してから、冷風扇の電源を入れる。

・T1からT5はA児からF児に周りの友だちの様子や必要に応じて道具の使い方や洗い方などを伝えたりして、じっくりと楽しめるようにする。

・T1からT5は、自分たちの手で洗濯ができることを知り、綺麗になった驚きや嬉しさを感じられるように言葉かけをする。

・T1からT5は幼児たちの発言や発見を周りに知らせ、幼児たち同士もやりとりができるように言葉かけをする。

・T1、T6は洗い→すすぎになるときに、容器の中の水をきれいなものに入れ替える。

・ロープの位置がわかるように、ロープに鈴をつけておく。

・マットのないコンクリート面が熱くないように、T6がシャワーで水をまき、歩けるようにする。

・T1がロープのところに行くため、T6と交代し、T6がC児、E児を見守る。

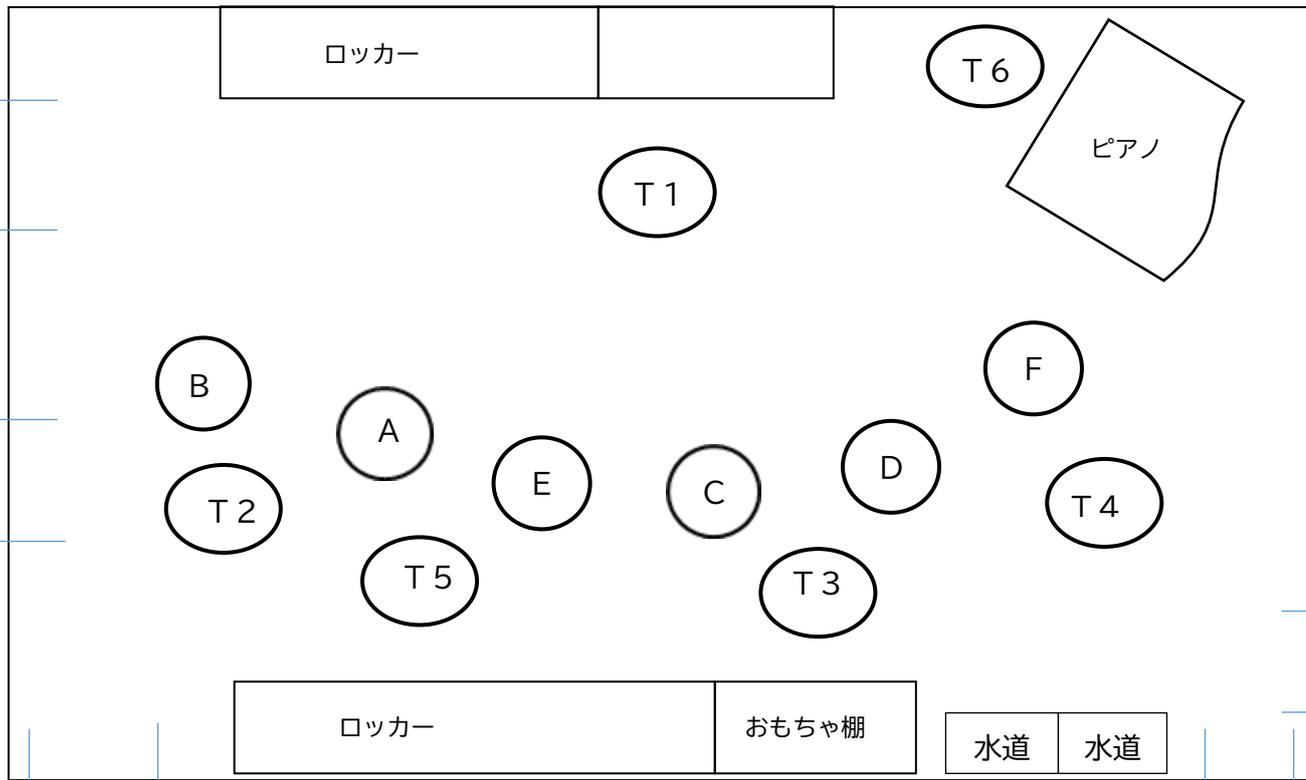
・干しに行くときはロープの位置が分かるようにT1が鈴を鳴らし、呼びかけるようにし、ロープまで安全に移動できるようにする。

・①グループの3名から干すようにし、干

		<p>し終わり元の場所に戻ったらT5はA児をT2に見守りをお願いし、②グループが干しに行く際にT5はE児の移動の見守りを行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備物：たらい、衣装ケース、ビニールプール、洗濯板、水、粉せっけん、ロープ、鈴、洗濯バサミ、濡れタオル、乾いたタオル、水のはいったバケツ、マット、箱椅子</li> </ul>
<p>5分 ま と め</p>	<p>○洗濯ごっこを振り返り、楽しかったことや、頑張ったことを発表する。</p> <p>○次回の活動内容をきく。</p> <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T6は、すすぎ用のたらいを幼児の元から離れた場所へ移動させる。</li> <li>・みんなで遊んで楽しかったことや、頑張ったことなどを友だちに伝えることで経験を共有できるようにする。</li> <li>・みんなで1つの洗濯物を綺麗に洗えた喜びを共有できるように言葉がけをする。</li> <li>・次回の活動を伝えることで、見通しを持てるようにする。</li> <li>・T6は、テラスから部屋に入る際に、足を洗うための水の入ったたらいを下足箱前のマットに用意し、足ふき用のマットを弾くようにする。</li> <li>・準備物：足ふきマット、足を洗う用に水の入ったたらい、タオル</li> </ul>

(4) 活動環境の配置等（正面を上にして、幼児や保育者の位置、教材・教具の配置等を示す）

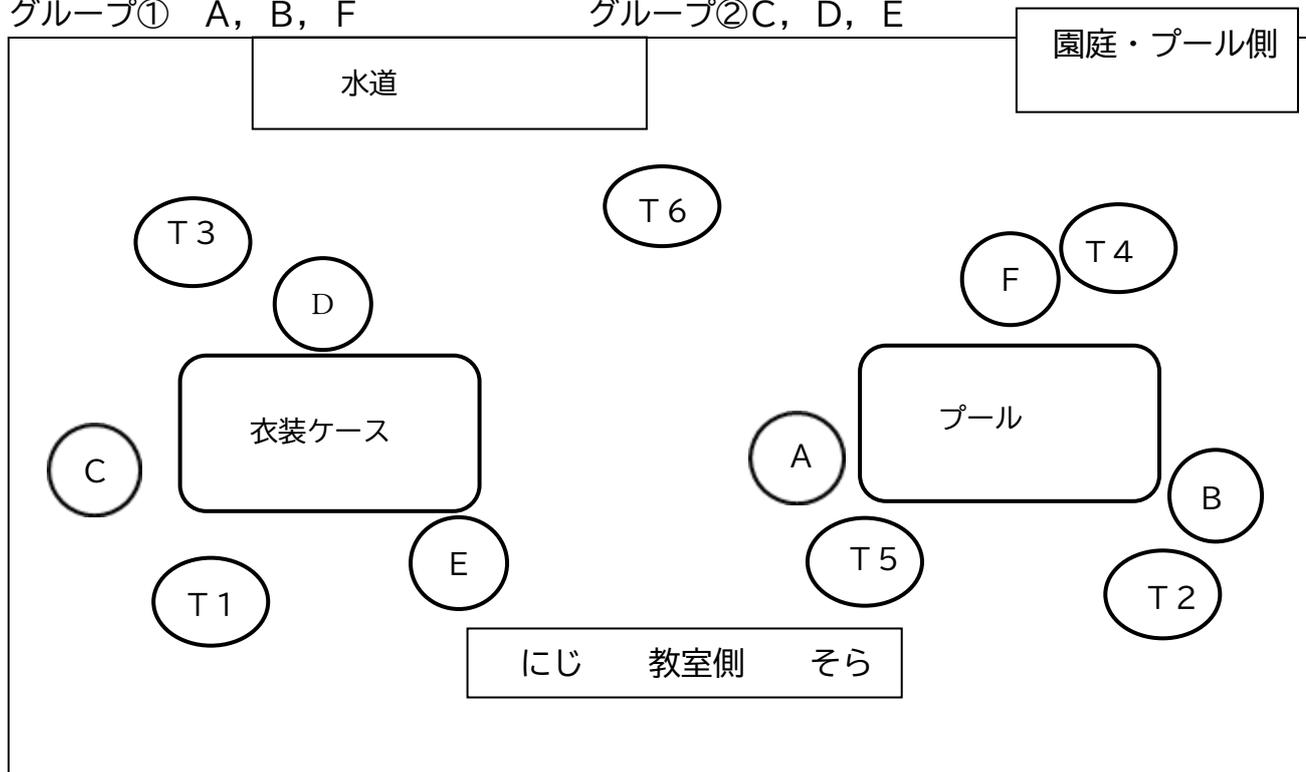
<そらの部屋>



<テラス>

グループ① A, B, F

グループ② C, D, E



## 資料1

「じゃぶじゃぶ おせんたく」の歌（「じゃぶじゃぶ せんたくき」の替え歌）

- |    |       |       |         |         |        |
|----|-------|-------|---------|---------|--------|
| 1. | せんたくだ | せんたくだ | ごしごし    | あらいましょ  |        |
|    | せんたくだ | せんたくだ | ごしごし    | あらいましょ  |        |
| 2. | あらって  | あらって  | じゃぶじゃぶ  | あらいましょ  |        |
|    | あらって  | あらって  | じゃぶじゃぶ  | あらいましょ  |        |
| 3. | すすいで  | すすいで  | あわぶく    | あわぶく    | おとしましょ |
|    | すすいで  | すすいで  | あわぶく    | あわぶく    | おとしましょ |
| 4. | しぼって  | しぼって  | ぎゅっぎゅっ  | ぎゅっぎゅっ  | しぼりましよ |
|    | しぼって  | しぼって  | ぎゅっぎゅっ  | ぎゅっぎゅっ  | しぼりましよ |
| 5. | たたいて  | たたいて  | しわをのばして | ほしまししょう |        |
|    | たたいて  | たたいて  | しわをのばして | ほしまししょう |        |
| 6. | のばして  | のばして  | アイロン    | かけましよう  |        |
|    | のばして  | のばして  | アイロン    | かけましよう  |        |

# 体育科「運動」学習指導案

指導者 寺井伸太郎(T1)  
市田 健人(T2)  
岩田 美穂(T3)  
宇治丸 幸(T4)  
小川 潔(T5)  
祢宜 志枝(T6)  
林 幹夫(T7)  
松尾 賢喜(T8)

1. 日時 令和2年〇月〇日(〇) 第3時限(10:50~11:35)
2. 場所 小学部 第1・2・3・5・6学年 1組
3. 対象 プレイルーム
4. 単元名 「いろいろな体の使い方を知ろう！」
5. 単元目標

- ・音楽に合わせて体を動かしたり、動物の特徴を表した動きをしたりして楽しむ。
- ・体操をしたり歩いたりして、いろいろな体の動かし方をする。

## 6. 児童観

本学級の児童は小学部1・2・3・5・6年生の重複学級8名(男子6名、女子2名。普段は1・2年生3名はB教室、3・5・6年生5名はA教室をHR教室として活動している。)であり、全員が視覚障がい以外の障がいも併せ有している。視覚障がいの状態は児童一人ひとりによって異なり、弱視の児童や、全盲の児童がいる。一部の児童は休み時間に教師と簡単な会話のやり取りをして楽しんでいるが、一人で遊ぶことが多く、友だちに関わりを持つことが少ない児童もいる。そのため授業で指導する際は教師が促して、大人や友だちへの関わりを持つようにしている。また、見えにくさから体を大きく使って遊ぶことは少なく、座っていたり手の届く範囲で遊んでいたりとすることが多いので、昼休みにプレイルームや運動場に行って大きく体を動かすようにしている。

授業では、環境の変化に敏感で気持ちが不安定になることもあり、初めてのことや慣れないことをすると不安感から落ち着いて活動できない時がある。また、椅子に座って取り組む授業では上半身を支えきれず机の上につ伏せになることがあるので、集中力を持続させることや1つの授業の間で姿勢を保持し続けることが課題である。

本学級の運動の授業は、挨拶、ランニング、体操、単元ごとに変わる学習、整理体操、挨拶の順で構成し、年間を通して同じ流れで行っている。毎回同じ流れで学習を進めることで授業に見通しを持ち、児童が落ち着いて活動できるように工夫している。

音楽やリズムの授業で音楽を聴くことや歌うこと、楽器を使って演奏することが好きな児童が多い。運動の授業でも音楽をかけながらランニングをすることで、意欲的に活動する姿が見られ

る。準備運動では、今まで取り組んできたオリジナル体操を毎回行うことで、基本的な体の動きを習得できつつある児童もいる。その中でもつま先立ちや前屈などの動きに一人で取り組もうとしている。

バランス運動では、これまで片足立ちやつま先立ちをする活動を行ってきた。児童の実態から、片足立ちは持続させることが難しい児童がほとんどであるので、手を繋いで行っている。つま先立ちは教師の援助でできる児童が大半であるが、一人でできる児童もいる。

歩く活動はこれまで教師が前から呼んで前に歩いたり、後ろから呼んで後ろに歩いたりすることや、教師と手を繋いで横歩きをすることをやってきた。教師の声かけの方向に向かって歩くことはどの児童もできている。横歩きは教師の指示に合わせ、歩幅を変えて活動できる児童もいる。一方で足腰のバランスが不安定な児童は手つなぎで教師と一緒に、横歩きに取り組んでいる。また、自分から横に足を動かすことが難しい児童もいる。

## 7. 教材観

本校の重複学級では「運動」の授業が週2コマ、「グループ」の授業が週1コマある。本単元の授業「運動」では小学校の体育で行う運動を児童の実態に合わせた内容に変えて取り組んでいる。

「グループ」の授業では児童の課題に合わせた集団で分かれ、それぞれの実態に応じた内容を行っている。現在はヨガで様々な姿勢をしたり呼吸を意識した動きをしたりするグループと、歩行が不安定な児童にマッサージを行い、歩行機能の改善を促す運動を行うグループに分かれている。

ランニングでは音楽を流しながら1番目の曲で児童の実態に合わせてランニングや歩く練習に取り組む。体力作りや、ウォーミングアップを目的として一定時間行う。2番目の曲では歩くことを主に、児童の実態に合わせて、前向き歩きや後ろ歩き、横歩きに取り組む。様々な足の動かし方を知るために行う。

本単元では体づくり運動として授業前半では新しいオリジナル体操の練習、後半に動物の名前を取り入れた粗大運動を行う。

前半はオリジナル体操として、手や肩のストレッチや体全体を使った運動を行う。児童は普段の生活で、体を大きく動かす経験が少なく、腕や脚を伸ばすことなどを意識して体の部位を動かすことが難しい。また、テンポが速くなると、曲に合わせて体を動かすことが難しいので、以前から重複学級の運動の授業では、児童の実態に合わせた体操を準備運動として行ってきた。前年度までのオリジナル体操では腕を回す、つま先立ちになって腕を目一杯上に伸ばす、しゃがんでジャンプするなど、大きい動作を重視して活動してきた。つま先立ちやジャンプなど児童自ら進んで活動できるようになってきたことや、小さい動きやストレッチの動きがなかったことから、前年度までのオリジナル体操で活動してきた動きに加え、新しい動きも取り入れた新しいオリジナル体操を行うことにした。手首や肩のストレッチをすることで、自分の体の部位に意識や興味を持てると考えた。

体操で使用する音楽は「日本昔ばなし」の『にんげんっていいな』の曲に決めた。この曲は児童にとって馴染みがあるもので、楽しみながら活動できると考える。普段の生活から口ずさんで

いる児童もいるため、曲を止めて旋律を口ずさみながら活動することで、児童のペースに合わせた指導を行いやすい。そして曲の構成が前奏、1番、間奏、2番、最後のサビとなっていて児童にとって覚えやすく曲に馴染みやすいと考える。時間も3分弱であるので、児童が集中して取り組み、体操として適切な長さであると考えた。2小節毎で旋律が一つにまとまっているため、体の動きを変えるタイミングを掴みやすいと考えた。また、本来の速度では体操に使うとテンポが速く十分に活動できないため、再生速度を遅く編集している。歌詞のある音楽を使うと歌に気を取られてしまうことが予想されるので、メロディのみの音源を使用する。

後半は、腕や足に力を入れる動きを取り入れた動物歩きを行う。児童は学校生活で十分に力を入れて活動することが難しいことがある。また、他の授業でも体を良い姿勢で保持することが課題である。本授業では上半身の力を使って進む活動や高ばいの姿勢で歩く活動を行うことで腕や足の力をつけることができると考えた。また、足を大きく前に出して大股で歩く活動や、足音を大きく立てて歩く活動を通して、足の動かし方について意識することができると考えた。グループ別の運動の授業でも動物の名前を取り入れたヨガの活動を行っている。動物の名前は他の授業でも取り入れているため児童に馴染みがある単語であることや、年一回の動物を触ることができる行事があることから、動物の名前に興味がある児童が多い。動物の名前を活動に取り入れることで体の動きを覚えることがスムーズになったり、進んで取り組もうとする姿が見られたりする。今回行う体づくり運動でも、一つひとつの動きに動物の名前を取り入れた歩き方で児童がより一層活動に参加できるよう、モチベーションを高めたいと考えている。

## 8. 指導観

運動の授業を通し、教師と一緒に体を動かしたり、集団の中で他の児童と一緒に体を動かしたりする中で、人と活動する楽しさを感じてもらいたい。本単元を学習することで自身の体の動きに興味を持ったり、オリジナル体操や動物歩きで行った体の動きを生かし、実生活に取り入れたることができるようになってほしいと考える。

指導にあたっては、一つひとつの動きを児童が覚えていけるように、ゆっくりと、丁寧に一つずつ動作を確認しながら進めていく。筋を伸ばすように、適度に力を加えてストレッチすることが難しい児童もいるので、様子を見ながら児童に合わせて教師と一緒に活動するようにする。教師の体の動きを見て模倣できる児童には、教師が動きを見せ、見て模倣することが難しい児童には、教師からのことばでの表現や児童の手や足に教師の手を添えて動きを伝えるなど、児童それぞれの見え方や実態に合わせて指導を行っていく。また、初めてのことが苦手な児童は、不安を感じることも考えられるので、活動の見通しを持ったり、安心感が得られたりするような声かけをしながら児童の指導にあたるようにする。授業が進むにつれ、より難しいことができそうな児童には屈伸や頭の上で手をたたく回数を増やすことや、ストレッチで伸ばす箇所に力を強めるように声かけをして課題をそれぞれの児童の実態に合わせて進めていく。前年度から行ってきたジャンプやつま先立ちなどは音楽に合わせてできるようになってきている児童もいるので、本単元でも続けて取り組んでいく。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 教師の支援を受けながら、楽しく体を動かしている。 ② 運動の楽しさを感じ、体づくり運動をしている。	① 音楽を聴いて体を動かし、楽しんでいる。 ② 指示を聴いて体づくり運動をしようとしている。	① 音楽や教師の指示を聴いて、教師の支援を受けながら運動をしようとしている。 ② 音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動しようとしている。

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第3時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
一次	1時	・オリジナル体操で使う曲を知る。 ・曲の1番前半の運動をする。 ・様々な歩き方を知る。〈恐竜・キリン・ワニ歩き〉	・体操で使う曲を聴く。 ・曲に合わせて肩のストレッチと頭の上で手をたたき動きをする。 ・大股歩き、つま先歩き、手押し車をする。	・体の動きがわかるようにそれぞれの実態に合わせた指導を行う。  ・大股歩きでは教師が声かけをしたり児童の足を持ったりして、大きく一歩踏み出せるように活動する。 ・つま先歩きはかかとを上げたまま維持できるように、声かけを連続して行う。 ・手押し車では個々の実態に合わせて足首や腰を持って補助し、負荷を変えて指導する。	B① C①
	2時	・曲の1番後半の運動をする。	・手首をほぐす、つま先立ちをする活動を行う。	・肩を十分に動かすことができるように高い位置で手をたたきよう指導する。 ・手首をほぐす活動では力を抜いて手を振るように指導する。 ・つま先立ちでは、腕を目一杯	A① C①

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高ばいをする。 〈くま歩き〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高ばいをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伸ばし、体全体が伸びるように指導する。</li> <li>・高ばいで歩く活動では個々の実態に合わせて腰を持って補助し、負荷を変えて指導する。</li> </ul>	
二次	3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の2番前半の運動をする。</li> <li>・前回までの動物歩きを振り返って活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲に合わせて前後屈、体を横に倒す運動、腰ひねりをする。</li> <li>・恐竜・キリン・ワニ・くま歩きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後屈では膝を伸ばした状態で前屈したり、胸を張って後屈したりできるように声かけする。</li> <li>・腕を上には伸ばしてから体を倒すように指導し、体を横に倒す感覚がわかるようにする。</li> <li>・腰ひねりでは体をねじることができるよう、顔を後ろに向けたり、腕を後ろに持ってきたりするように声かけする。下半身まで動いてしまう児童には腰を支持して動かないようにする。</li> <li>・前回までの動物歩きを積極的にできるように声かけする。</li> </ul>	A① C①
	4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の2番後半の運動をする。</li> <li>・他にも歩き方があることを知る。〈ゾウ・アザラシ、くま歩き、(カエルジャンプ)〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片足立ちと屈伸運動をする。</li> <li>・足音を立てて歩く、腕支持歩き、高ばいで歩く活動を行う。</li> <li>・できそうな児童はしゃがんだ状態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片足立ちでは一人で取り組むようにしたり、児童の手を持って支えたり、児童の実態に応じて指導する。</li> <li>・屈伸運動では「しゃがんで立つ」と声かけを行い、曲のリズムに乗って体を動かせるようにする。</li> <li>・足音を立てて歩く活動では、教師が児童の横でやって見せ、足音を大きく立てることを意識できるようにする。</li> <li>・腕支持歩きはしっかりと腕の力を使って前に進めるように</li> </ul>	A② C②

			で手を前につき、足を勢いよく前に持ってきて進む活動をする(カエルジャンプ)。課題が合わない児童はくま歩きを行う。	声かけをする。また、布を膝に当てて運動する。 ・カエルジャンプでは教師が動きを見せたり、児童の体を支えたりして動きを伝えられるようにする。	
三 次	5時	・曲の最後のサビの運動をする。 ・これまでの動物歩きを振り返って活動する。〈恐竜・キリン・ワニ・くま・ゾウ・アザラシ歩き、カエルジャンプ〉	・曲に合わせて最初から全て通して体操する。 ・これまでの活動を一つずつ思い出せるように活動する。	・体操の内容がわかるよう、曲に合わせて動作を指示する。  ・一つひとつ、覚えている動きを児童が発表しながら進める。	B② C②
	6時	・1曲通してオリジナル体操をする。  ・これまで行ってきた動物歩きを振り返ってみんなの前で発表する。	・それぞれの運動で意識する箇所を確認し、活動する。 ・児童一人ひとりがみんなの前で発表する。	・曲を流して活動している時に、意識する箇所の声かけをして指導する。  ・発表する歩き方をそれぞれの教師と相談して決めるようにする。 ・担当の教師が発表している様子をわかりやすく児童に伝える。	A② B②

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・楽しく体を動かすことができる。
- ・音楽や教師の指示を聴いて体を動かすことができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・教師の支援を受けながら、楽しく体づくり運動をしている。A①
- ・音楽や教師の指示を聴いて、教師の支援を受けながら体づくり運動をしようとしている。C①

(3) 本時で扱う教材・教具

スピーカー、音源、手引き紐7本(ランニングに使用。C児は使用しない。)

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<p>1年、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数メートル先の教師を判別したり、向かい合って体操をしている教師を模倣して体を動かしたりすることができる。</li> <li>・教師からの指示はおおむね理解ができ、簡単な言葉でのやりとりができる。</li> <li>・歩行が不安定であるため支援や注意が必要。サポーターやハイカットの靴で足首を補助していて、屈伸など難しい動きがあるが、運動の授業は毎回楽しみにしている。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、自分から体を動かす。</li> <li>・教師の支援を受けながら、オリジナル体操や動物歩きをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい活動を行う時は、教師が目の前で動きを見せて指導する。</li> <li>・体操では、教師が目の前で動きを見せたり体を支えたりして支援する。動きによって支援の仕方を変えるようにする。</li> <li>・動物歩きでは、一人で体を支えることが難しいため、教師が補助をして体への負荷を調整するように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動することができるか。</li> <li>・教師の支援を受けながら体づくり運動をしようとしている。</li> </ul>
B	<p>2年、全盲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からのことばは理解し、簡単な動作であれば教師の指示を聴いて活動することができる。また、言葉で教師とやりとりができる。</li> <li>・声かけや音源があればその方向に進むことができるが、つま先の向きが変わりやすい。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な基本動作に関すること。(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・教師の支援を受けながら、オリジナル体操や動物歩きをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい活動を行う時は、ことばで伝えたり、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動することができるか。</li> <li>・教師の支援を受けながら体づくり運動をしようとしている。</li> </ul>
C	<p>2年、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見て模倣することは難しいが、青や赤などのはっきりした色であれば判別することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて、楽しく体を動かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操では、体のバランスが不安定なため、動きによっては腰を持つようにしてバランスを保った状態で活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動することができるか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの指示はおおむね理解ができ、簡単な言葉でのやりとりができる。</li> <li>・昨年度までのオリジナル体操ではピンと腕を伸ばしたり、力を加えてストレッチしたりすることは難しかったが、音楽に合わせて体を動かす様子がうかがえた。</li> <li>・歩行については不安定であり、ハイカットの靴で足首を保護しているが、どの活動も意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・眼疾により目に物などが当たるといけないため、他児童との接触や転倒に気を付ける必要がある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の支援を受けながら、オリジナル体操や動物歩きをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物歩きでは、一人で体を支えることが難しかったため、教師が補助をして体への負荷を調整するように支援する。</li> <li>・新しい活動を行う時は、ことばで伝えたり、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の支援を受けながら体づくり運動をしようとしている。</li> </ul>
D	<p>3年、全盲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの簡単な指示は理解できている。何度も使う言葉ややりとりは覚えて使うことができる。</li> <li>・運動やヨガの授業では、慣れていくと落ち着いて活動することができる。繰り返し同じ動きを練習することで一つずつ覚えて、自分から次の動作の名前を言って少ない援助で取り組むことができる。</li> <li>・こだわりが強く、初めてのことやいつもの流れと違うと混乱することがあるが、教師の声かけを聴いて、自分の気持ちを整理できている。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴いて自分から体を動かすことができる。</li> <li>・楽しみながら体を動かすことができる場面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れないことや次の活動に不安感がある時は、見通しが持てるように声かけを行う。</li> <li>・新しい活動を行う時は、ことばで伝えたり、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動することができるか。</li> <li>・指示された動きを覚え、活動に見通しを持って活動することができるか。</li> </ul>
E	<p>3年、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人や物にぶつかることなく、一人で歩走ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴いて体を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい活動を行う時は、教師が目の前で動きを見せたり、児童の腕や足に手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴いて体を動かす</li> </ul>

	<p>・言葉の表出はなく、指さしをしたり行きたいところに行ったりして意思表示する。教師からの簡単な指示は理解できている。</p> <p>・運動やヨガの授業では、教師の動きを見て模倣することができる時もある。</p> <p>・今年7月に網膜剥離の手術を行ったため、激しい運動は禁止されている。</p> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き ・日常生活に必要な基本動作に関する事。(3)</p>	<p>動かすことができる。</p> <p>・教師の支援を受けながら、授業に参加することができる。</p>	<p>を添えたりして指導する。</p> <p>・授業から離れている時はみんなが取り組んでいる様子を伝えて、授業に参加できるように促す。</p>	<p>ことができているか。</p> <p>・教師の動きを見て、模倣するように活動することができるか。</p>
F	<p>3年、全盲</p> <p>・教師からの指示はおおむね理解でき、簡単な言葉でのやりとりができる。</p> <p>・どのような活動も積極的に活動しようとするが、集中力が長く持続せず、指示が通らないことがある。</p> <p>・昨年度のオリジナル体操は集中していると、腕をピンと伸ばしたり、大きく腕を動かしたりするなど、体の動かし方について意識することができるようになってきている。</p> <p>【関連する自立活動の内容】 区分：身体の動き ・日常生活に必要な基本動作に関する事。(3)</p>	<p>・基本的な体の動きを知り、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>・教師の支援を受けながら、曲に合わせて体を動かすことができる。</p>	<p>・新しい活動を行う時は、ことばで伝えたり、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</p> <p>・楽しんで活動できるように声かけをする。</p>	<p>・音楽や教師の指示を聴き、楽しく活動することができるか。</p> <p>・指示された動きを覚え、意識する箇所を動かすことができるか。</p>
G	<p>5年、全盲</p> <p>・言葉の表出はないが、教師からの声かけや指示はおおむね理解できている。また、気持ちを伝えたい時は教師の腕を引っ張ることや手のサインで示す。</p> <p>・前年度までのオリジナル体操では、一人では腕をピンと伸ばしたり大きく動かしたりすることは難しかったが、ある程度の動きを覚えて動くことができていた。</p>	<p>・音楽を聴いて楽しみながら活動することができる。</p> <p>・自分から体を動かすことができる。</p>	<p>・新しい活動を行う時は、ことばで伝えたり、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</p> <p>・不安がある時は見通しを持てるように声かけをしたり、楽しめるように声かけをしたりする。</p>	<p>・音楽や教師の指示を聴いて、楽しく活動することができるか。</p> <p>・音楽や教師の指示を聴き、活動しようとしているか。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのことにに対して不安感があることもしばしば見受けられる。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(1)</li> </ul>			
H	<p>6年、弱視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おおまかに空間を把握し、一人で歩いたり、走ったりすることができる。</li> <li>・言葉の表出はないが、教師からの声かけや指示はおおむね理解できている。また、気持ちを伝えたい時は教師の腕を引っ張ることや手のサインで示す。</li> <li>・運動の授業では音楽や教師の指示に合わせて体を動かすことは難しいが、しゃがんでジャンプしたり片足立したりすることなど、教師の促しや援助によってできることもある。</li> <li>・右足の緊張が強く踵が浮いた状態で歩くため歩行が不安定である。歩行を安定させるため、足底板が入った靴を履いている。</li> <li>・右目に義眼を装着しており、落としてしまうことがある。(授業の始まりと終わりはもちろん、随時教師が入っているかどうかをチェックする。)</li> <li>・音楽が好きなので、好きなフレーズや音を聴くと親指で耳を押したり離したりして遊ぶことがある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を聴いて楽しみながら活動することが出来る。</li> <li>・大まかな体の動きを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操では一人で体を動かすことが難しいため、教師が手を添えて補助する。</li> <li>・動物歩きでは、一人で体を支えることが難しいため、教師が補助をして体への負荷を調整するように支援する。</li> <li>・新しい活動を行う時は、児童の腕や足に手を添えたりして動きを伝えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や教師の指示を聴き、教師の支援を受けながら楽しく活動できているか。</li> <li>・音楽や教師の指示を聴き、活動することができているか。</li> </ul>

#### (5) 本時の学習過程

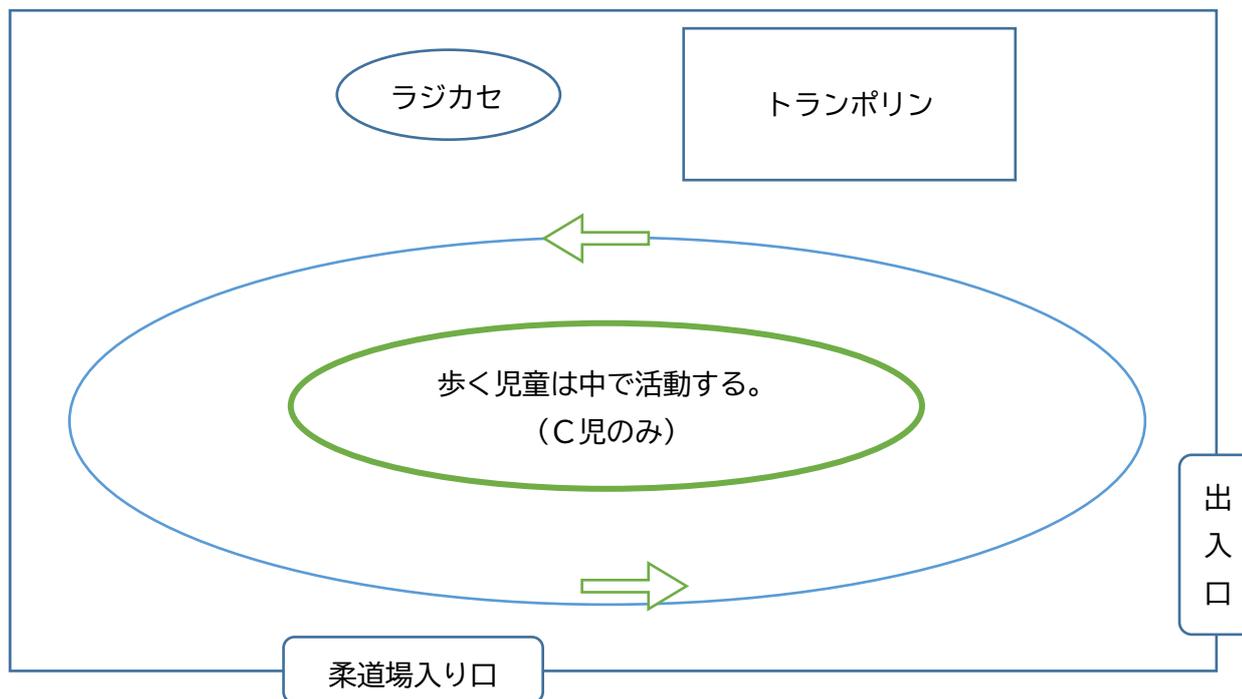
※コロナの感染対策として室内の換気を良くすることや、活動中児童同士の距離を十分に保つことに注意する。また、児童が触れたものを他の児童が触れないように留意する。各授業で児童が触れたものは授業後に必ず消毒を行う。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
5分 導入	<p>○円形に集合して始めの挨拶をする。</p> <p>○出欠確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A教室の当番がB教室の当番に「B教室はお休みの人いますか」ときく。</li> <li>・ B教室の当番はその日のB教室の休んでいる友だちの名前を言う。いない場合は「お休みはいません」と言う。</li> <li>・ A教室の当番はその日のA教室の休んでいる友だちの名前を言う。いない場合は「A教室は(も)お休みはいません」と言う。</li> </ul> <p>○円形に集合して活動の説明を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の始まりを意識できるように姿勢を正す声かけをする。</li> <li>・ 教室ごとの当番の児童同士で決まった言葉で出欠確認をすることで、一緒に活動する友だちを意識できるようにする。</li> <li>・ 当番の児童についている教師は、必要であれば児童がやりとりをできるように促す。</li> <li>・ 取り組む活動を順番通りに伝えることで、授業に見通しを持てるようにする。</li> </ul>	
30分 展開	<p>○曲に合わせて走る、歩く。 （教室全体のまわりを反時計回りに走る・歩く。歩行の練習をする児童Cは教室の真ん中の往復とする。）</p> <p>○新しいオリジナル体操をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円形に集合し、前回までの活動の復習をする。</li> <li>・ 本時で取り組む体操の音楽の箇所を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走る活動では、児童の実態によって手つなぎや手引きを行ったり、児童の前方から声かけをしたりする。</li> <li>・ 歩く活動では、児童の実態によって横歩きや後ろ歩きをしたり、歩行が不安定な児童には腰などを支えて補助し歩行の練習をしたりする。（横歩きや後ろ歩きに変えるタイミングは各教師が児童の様子を見て決め、指示する。）</li> <li>・ 前回に意識するように指導した内容を振り返って思い出せるようにする。</li> <li>・ 個々の実態に合わせて教師の支援の仕方を変えて指導する。</li> <li>・ 本時で行う音楽の箇所をわかるようにする。</li> </ul>	<p>【A①】</p> <p>【C①】</p>

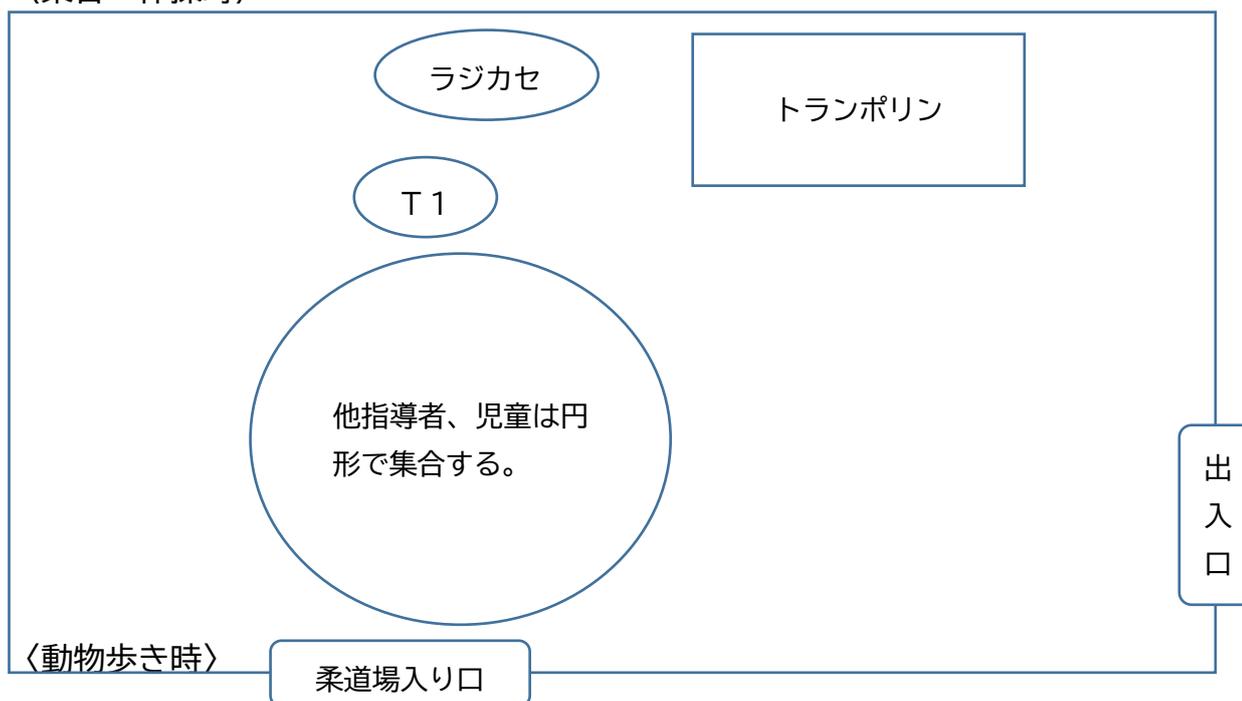
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく取り組む運動を、曲を止めて一つずつ練習する。</li> <li>・曲に合わせて活動する。</li> </ul> <p>○動物歩きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回活動した動きを確認しながら、動物歩きをする。 〈恐竜・キリン・ワニ・くま歩き〉</li> </ul> <p>※どんな動きをしたのか思い出す活動の時円形のまま、活動を始める時は柔道場側の壁の前に一列に並んで座って待機する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態に合わせた方法で、体の動きがわかるように指導する。</li> <li>・児童の意欲を高めるため、上手にできている児童や積極的に取り組もうとしている児童は、指名してみんなの前で発表するようにする。</li> <li>・担当の教師が発表している様子をわかりやすく児童に伝える。</li> <li>・曲と体の動きを合わせやすくするため、曲を流しながら体の動きを伝える声かけを行う。</li> </ul> <p>・前回の活動を思い出せるように、前回どんな動きをしたのかを発問し、思い出した児童はみんなの前で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の特徴を伝えて、動物の名前と動きを結びつけられるようにする。</li> <li>・児童の意欲を高めるため、上手にできている児童や積極的に取り組もうとしている児童は、指名してみんなの前で発表するようにする。(発表者以外は座って待機。)</li> <li>・担当の教師が発表している様子をわかりやすく児童に伝える。</li> </ul>	<p>【A①】 【C①】</p>
<p>10分 ま と め</p>	<p>○円形に集合し、整理体操をする。</p> <p>○本時で行った内容のまとめと次時の説明を聴く。</p> <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操の名前を指示してから体の動きについて声かけすることで、体操の動きをイメージしやすいようにする。</li> <li>・背筋を伸ばして立つように声かけをすることで聴く姿勢を意識させる。</li> <li>・良い姿勢で挨拶ができるように声かけする。</li> </ul>	

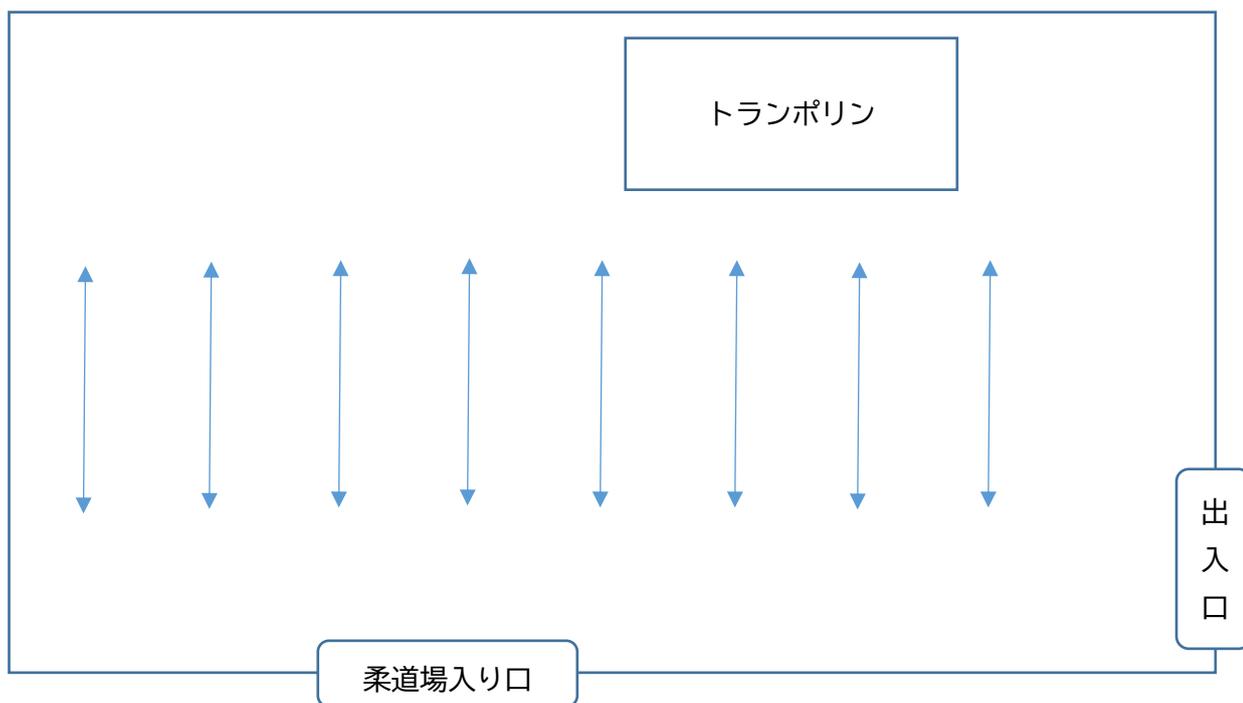
(6) 教室配置等  
〈ランニング時〉

← (走る方向)



〈集合・体操時〉





(動物歩きの活動時は出入口にA児から順番に並び、往復して活動するようにする。)

# 「図画工作」(図工) 学習指導案

指導者 T1 東浦 奏子  
T2 中島 遥

1. 日時 令和2年〇月〇日(〇) 第3時限(10:50~11:35)
2. 対象 小学部2組 児童3名(3年生1名、5年生2名)
3. 場所 自立活動室
4. 単元名 「あそびにきてね、わたしのいえ」
5. 単元目標
  - ・作りたい物に合わせて、適当な素材を選んだり、安全に気を付けながらダンボールカッターで切り方を工夫したりする。(知・技)
  - ・作りたい物の大きさや形などを考え、形をとらえながら表現する。(思・判・表)
  - ・何度も試したり、工夫したりしながら、すすんで造形活動に取り組む(学・人)

## 6. 児童観

本学級の児童は、小学部3年生の児童1名、5年生の児童2名の計3名からなる複式学級である。3名とも弱視であるが、数メートル先の文字を判別できる児童から、顔を近づけると文字を見ることのできる児童、色の濃い物がぼんやりと見える児童と見え方は様々である。3名とも図画工作の授業は好きで、表現したいものをイメージしながら、意欲的に手指を動かしたり、形に表したりすることができる。

手指の操作面では、これまでの授業等の中で、様々な道具を使う経験をしてきた。はさみを使って波形やうずまき状に切ったり、金づちを使って釘を打ったりと、できる早さや技巧のなめらかさに差はあるが、どの児童も安全面や技巧面のルールを守りながら、表現したいことに合わせて道具を扱うことができている。また、昨年度には「まどをひらいて」の学習で、教員の見守りや補助の下で、カッターナイフと定規を使って直線の切り込みを入れ、四角や三角を切る経験もしている。

表現面では、1学期の授業「こねて、まるめて、のばして」において、土粘土のかたまりに、丸めたりひも状に伸ばしたりして形作った粘土を貼り付けて、作品を作った。土粘土のかたまりを家や人の顔などの物に見立てた上で、完成図をある程度想像しながら作品作りを楽しむ児童もいれば、ひも状にしたり、型抜きをしたりなど、粘土を形作ること自体を楽しんだ後、土粘土のかたまりを順に重ねて作品にする児童もおり、作品づくりの楽しみ方や、完成までのアプローチの仕方はそれぞれである。

描いたり作ったりする経験においては、家庭で廃材等を使って自発的に立体物を作って遊ぶ児童もいるが、図画工作の授業でしか制作や描画活動に触れることのない児童もいる。

## 7. 教材観

本単元は、ダンボールを折ったり、ダンボールカッターで切ったり、切ったものを組み立てたりといった活動を行う。第3次からは「家」というテーマを設定して制作活動に取り組む。児童たちは、土粘土を使った「こねて、まるめて、のばして」や、ビニール袋に花紙を詰め、それらをテープやモールを使って動物の人形を作る「カラフルフレンド」で、立体作品作りに取り組んだ。これらの活動を経てきた児童に、机上よりもっと広い空間を使って立体作品を作る経験をしてほしいと思い、この単元を設定した。

ダンボールは軽くて強度があり、切る、折る、貼る、色を塗るなどの加工がしやすい素材である。ダンボール同士を組み合わせることで、立体作品を作ることもできる。1つの素材を手や道具を使いながら形を変えていく面白さを味わうことができ、その軽さから児童が大きな作品を作ることに適していると考えられる。教材には主にダンボール箱を使用し、児童が扱いやすいよう、活動に応じて事前に箱を解体したり、片面を切り落としたりしておく。また、表現の幅を広げるため、様々な大きさの物を用意しておく。

ダンボールを切るための道具として、ダンボールカッターを使用する。安全かつ簡単にダンボールを切ることに適していると考えた。必要に応じて児童が使用し、豊かな表現につなげていきたい。

## 8. 指導観

本単元では、ダンボールという素材に親しむことや、ダンボールカッターを適切に扱うこと、作りたい物を想像し、形に表すことができるよう指導する。

第1次では、ダンボールに触れる、折る、破るといった手を使った活動を中心にダンボールを扱うことを通して、ダンボールの触感や厚み、形を変えるための力の入れ方を知り、ダンボールのもつ可塑性に感覚的に気付けることをねらいとする。のりづけして組み立てたダンボール箱を平らになるよう手ではがして解体する活動や、ダンボールの目の方向を変えて折ったり破いたりする活動、霧吹きで濡らして質感の変化を感じる活動、片面ダンボール（片側の覆い紙がないダンボール）を巻いて工作をしたり、キャタピラを作ったりといった活動を通して、楽しみながらダンボールの特性を感覚的に知り、ダンボールに親しんでいけるようにしたい。

第2次では、ダンボールカッターを使ってダンボールを切ったり、切り込みを入れてダンボール同士を組み合わせた活動を通して、ダンボールカッターの扱いに慣れ、適切に使えるようになることをねらいとする。活動の前にダンボールカッターの柄や刃などの部位を見たり触ったりしながら確認し、「体の正面で使う」「刃を前後に動かして切る」「刃の先に手や膝がないようにする」など安全に使うためのルールを設定し、安心して活動に取り組めるようにする。まずは30センチ四方程度のダンボール箱からダンボール片を切る活動から始め、1回～数回で切り落とせる活動を設定する。ここで、切り落とした端材に切り込みを入れることで、テープやのりを使わなくてもダンボール同士がつながることに気付かせ、第3次での立体作品作りにも取り入れていけるようにしたい。

第3次ではダンボールを使った立体作品作りに取り組んでいく。児童観の表現面の記述にもあったように、作品へのアプローチの仕方は児童それぞれであったが、今回は「家」という完成

させる物のテーマを決め、外壁→ドア→窓→屋根→装飾等と、一斉に同じ工程に取り組むこととした。また、工程は教員が設定するが、指定した材料を配ったり、具体的な手順の説明をしたりはしないようにする。児童が試しながら自分の作りたい物に合った素材を選んだり、切り方を工夫したりと、主体的に考えながら表現していくことを大切にしたいと思ったからである。「中に入って座れるくらいの家にするにはどんな大きさのダンボールがいいかな」等ヒントは与えながらも、材料やダンボールの組み合わせ方は明示せず、自分で試行錯誤しながらできたという経験を得てほしいと考える。一斉に同じ工程に取り組む理由としては、完成した家の全体像をイメージしづらい児童がいることも考えられるため、パーツごとに作る部分を提示することでイメージをもちやすいのではないかと考えた。また、児童3人が同じ工程に取り組むことで、友だちの気付きを共有し合ったり、刺激となって自分の作品に取り入れようとしたりするのではないかと考えた。指導の際は、児童の気付きを捉え、他の児童へ伝える橋渡しをしていきたい。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① ダンボールを折ったり切ったりする活動を通して、ダンボールの特性に気付いている。 ② 安全に気を付けながら、適切にダンボールカッターを使い、切りたい形を表現している。	① ダンボールを切ったり組み立てたりする活動を通して、できたものの形を捉え、どのように形を変化させたいかを考えている。 ② ダンボールの大きさや形、質感などから想像をひろげ、どのような物を作りたいかを考えている。 ③ 友だちの作品のよさを感じ取ったり考えたりしている。	① 進んでダンボールを切ったり組み立てたりしている。 ② 作りたい物を表現するために何度も試したり、工夫しようとしたりする。

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全8時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1 2	ダンボールで遊ぼう  ・ダンボールの特性を知る。	・ダンボール箱を解体したり、霧吹きで濡らしたりする。 ・キャタピラやトンネルを作る。 ・折ったり巻いたり	・活動を通して、ダンボールの質感や特性にふれる言葉かけをする。 ・児童が積極的に手を使うように働き	・A① （行動観察） ・C① （行動観察）

			して工作をする。	かける。	
2	3 4	ダンボールカッターを使ってみよう ・ダンボールカッターの使い方を知る。 ・ダンボールカッターを使ってダンボールを切ったり、ダンボール同士を組み合わせたりする。	・ダンボールカッターの使い方を確認する。 ・ダンボール片に切り込みを入れてダンボール同士を組み合わせる。	・前年度に学んだカッターナイフを使う際のルールを見せ、振り向き、ダンボールカッターとの共通点や相違点を伝える。 ・ダンボールカッターの扱いに慣れることができるよう、何度も切る機会を設ける。	・A② (行動観察) ・B① (行動観察)
3	⑤ 6 7 8	2組タウンを作ろう ・作りたい家の大きさや形を想像しながら作る。	・ダンボールを選び、切ったり組み合わせたりする。 ・空箱やセロファン等で飾る。 ・友だちの作品を鑑賞する。	・児童が作りたい物の大きさや形を想像したり、作りたい物に合った表現をしたりすることができるよう言葉かけをする。	・B② (行動観察) ・B③ (行動観察) ・C② (行動観察)

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ダンボールを組み合わせたり、ダンボールカッターで切ったりして、家の外壁やドアを作ることができる。
- ・作りたい家の大きさや形を考え、試しながら作ろうとする。
- ・友だちの作品のよさを感じ取っている。

### (2) 本時の評価規準

- ・外壁となるダンボールの大きさやドアの作り方を考えている。【B②】
- ・作りたい物に合った素材を試しながら選んだり、作りたい物を進んで形にしようとしていたりしている。【C②】
- ・友だちの作品づくりでの工夫や頑張った点を聞き、鑑賞時によく見たり触れたりしている。【B③】

### (3) 本時で扱う教材・教具

ダンボール箱、片面ダンボール、空き箱、ダンボールカッター、カラーガムテープ、カラーペン、はさみ

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<p>3年、弱視、墨字使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみで波形切りや細いうずまき状に切ることができる。</li> <li>・カッターナイフと定規を使って、教員の見守りで四角や三角などを切ることができた。</li> <li>・作りたい物や描きたいものを決めて、表現しようとする姿が見られる。</li> <li>・自分で考えて試してみる前に教員にやり方をたずねたり、少しでも自分の想定と違う出来になると、間違えたと思ってしまったりすることがある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚の活用に関すること。</li> </ul> <p>区分：心理的な安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況の理解と変化への対応に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールの大きさや形などをもとに作りたい物を考え、表そうとする。</li> <li>・自分で考えたり、試したりしながら家づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな大きさのダンボールや、その他の材料を用意し選択の幅を広げる。</li> <li>・安全に留意して見守り、自分で工夫したり試したりした面を認めていく。本人が失敗したと言った際には、カラーガムテープで飾る等、工夫できる方法を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作りたい物を適切な道具を使って表すことができているか。</li> <li>・大きさを確かめながらダンボールを選んだり、さまざまな材料を見比べたりして製作しているか。</li> </ul>
B	<p>5年、弱視、点字使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの形や大きさなどは主に手触りでとらえている。</li> <li>・切る線をペンで描いて示すと、はさみで波形やうずまき状に切ることができる。</li> <li>・カッターナイフと定規を教員と一緒に持って、四角や三角を切る経験をした。</li> <li>・使いたい色や、描きたいものなどの思いをもって、製作活動に取り組む姿が見られる。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚を総合的に活用した周囲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールの大きさや形をとらえ、作りたい家の大きさや形を考慮することができる。</li> <li>・さまざまな素材の特徴に気づき、作品に取り入れようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作りたい物の形や大きさをたずねながら、イメージに合った物ができているか、触覚等で確かめるよううながす。</li> <li>・どんな素材があるのかをあらかじめ提示したり、作りたい物の形や質感などに着目させながら素材を選ぶよう声をかけたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作った外壁の中に入って広さを確かめたり、手で形や大きさを確かめながら製作したりしているか。</li> <li>・さまざまな材料を手に取り、選ぶようしているか。</li> </ul>

	<p>の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。</p> <p>区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。</li> </ul>			
C	<p>5年、弱視、点字使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象物に顔を近づけると、大まかな形や大きさをとらえることができる。</li> <li>切る線をペンで描いて示すと、はさみで波形やうずまき状に切ることができる。</li> <li>定規を教員が手を添えて一緒に持ちながら、カッターナイフで四角や三角を切る経験をした。</li> <li>好きな活動は、楽しむ様子が見られるが、自分で技巧的に難しいと判断すると消極的になる傾向がある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <p>区分：環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保有する感覚の活用に関すること。</li> </ul> <p>区分：身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作りたい家の大きさや形、ドアの飾りなどを考えることができる。</li> <li>作りたい物を表現するために、いろいろな材料や道具を進んで試そうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんなデザインが考えられるかをたずね、イメージを広げる。</li> <li>表現方法がわからない際は、作りたい物を表現するために必要な物などをたずねたり、教員が提案したりしながら、できるだけ自分の力で表すことができるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作りたい家の大きさや形などを言葉に表しているか。</li> <li>さまざまな材料を手に取り、試そうとしているか。</li> </ul>

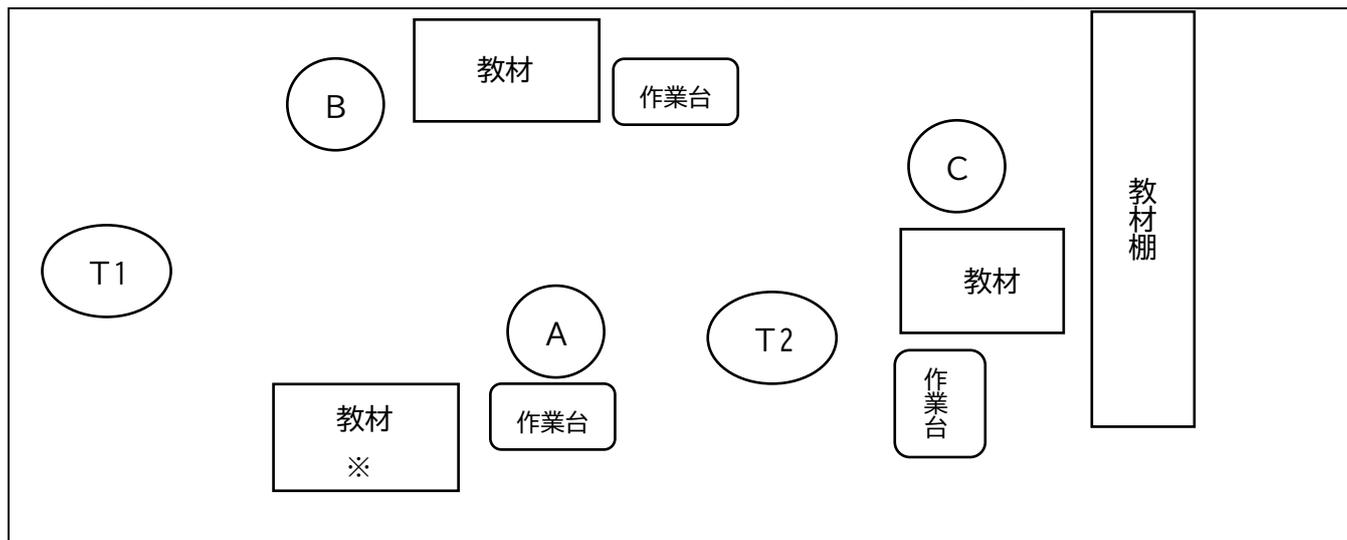
#### (5) 本時の学習過程

※新型コロナウイルスの感染を防ぐため、以下の対策を行う。

- ・室内の換気を授業前後に行う。
- ・教員・児童ともに授業前後に手洗いをを行う。
- ・製作活動は間隔を空けて行い、材料や道具の共用は行わない。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
5分 導入	○はじめのあいさつをする。  ○本時の活動内容を聞く。 「2組タウンを作ろう」	・授業の始まりを意識できるよう、あいさつをする。 ・作る物のイメージや期待感もてるよう、児童が中に入れる大きさの家を作ることを伝える。	
37分 展開	○ダンボールを使って家を作る。  ・適当な大きさのダンボールを選んで好きな形に囲い、家の外壁の形を決める。  ・ダンボールカッターで外壁を切ったり、別のダンボールをドアの形に切ったものを貼り付けたりして、ドアを作る。	・家を作るために必要なパーツを児童と確認し、外壁から作るよう言葉かけをする。 ・見通しをもち、作る家のイメージがふくらむよう、作る前に、使うことのできる材料や道具を確認する。その際、前時で取り扱ったダンボールカッターのルールを再確認する。 ・安全確保のため、ダンボールカッターを使う際には教員に声をかけ、机の上で作業をするように決まりを設定する。 ・工夫している児童がいれば取り上げ、他の児童とも共有できるようにする。 ・自由な表現を認め、「どんな模様にする？」などイメージが広がるような言葉かけをする。	B②（行動観察） C②（行動観察）
8分 まとめ	○製作途中の作品を鑑賞する。 ・自分の作品の中で頑張った点や工夫した点を発表する。 ・友だちの作品を順番に鑑賞する。作品の大きさや形を確かめられるよう、作品の周りを回ったり、切った部分に触れたりする。  ○第4時限の活動内容を聞く。	・発表時に、それぞれの児童の作品の良さや工夫していた様子を教員からも補足して伝える。 ・鑑賞時に、見えにくい児童には、必要に応じて家のパーツの位置や色などを言葉で伝える。  ・見通しが持てるよう、次時の内容を伝える。	B③（行動観察）

(6) 教室配置等（児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



出入り口

※教材は、ダンボール箱、片面ダンボール、空き箱、カラーガムテープ、カラーペン。  
種類ごとにまとめて、順に並べておく。

# 「外国語」(英語) 学習指導案

指導者 T1 谷口 遥

T2 村本佳恵子

1. 日時 令和2年〇月〇日(〇) 第3時限(9:50-10:40)

2. 対象 中学部 1・2年 特例1の課程 3名

3. 場所 中学部1年教室

4. 単元名「買い物表現」

5. 単元目標

①数量、名詞の単数形・複数形の違いに気付き、単語に不定冠詞「a, an」や複数形「s, es」を付けることができるようになる。

②果物に関する英単語の発音、意味、綴りを知り、読み書きできるようになる。

③買い物の場面で用いられる英語表現を覚え、ロールプレイに積極的に参加することができる。

6. 生徒観

本クラスは中学部1年の女子1名と、中学部2年の男子2名の計3名で構成されている。生徒全員が全盲で、授業では点字を使用している。普段の授業ではパーキンスや点字板を使用しており、日本語はスムーズに読み書きできる。

3名のうち1年の1名は1学期から、2年の2人のうち1名は昨年度からアルファベットやローマ字を学習しており、アルファベットはほぼ正確に読み書きすることができる。2年のもう1名は昨年度から英語を学んでいたものの、疾患のため今年度2学期までは自立活動に取り組んでいた。3学期から本クラスに参加する予定で、英語の学習にはブランクがある。集中力には大きな差があり、学習意欲を引き出すためには、個別の言葉かけや活動の工夫が必要である。

これまで色やクリスマス等に関連した英単語の読み書きと音読、日常会話で使用する「How are you?」や「great, happy」等の単語や文の音読と日本語の意味、ローマ字による日本の地名や人名の表し方を学習してきた。ゲーム形式の活動やクイズ形式の出題方法を特に好み、積極的に参加している。ゲームや歌、チャンツ(リズム練習)、クイズで学習した内容を覚えやすい傾向が

ある。

## 7. 教材観

本題材は果物を表す英単語を用いて店で買い物をするという場面を設定した。買い物は生徒にとって日常生活に関わりの深い場面の1つである。そのため英語による活動においても内容を想像しやすく、興味関心を高めることができるであろう。

果物の英単語は外来語として日常的に使われており、生徒にとって馴染み深いものである。本題材では多種多様な果物の中から短く発音しやすいもの、かつ綴りがローマ字に近く覚えやすいものと考えられる7単語 (peach, lemon, melon, banana, mango, cherry, orange) を選定した。

本単元で扱う文法事項は不定冠詞の「a, an」と、複数形の「s, es」である。果物を買う場面で数量の違いによって「a, an, s, es」を使い分け活用することを体験的に学習する。また1から10までの数量の表現や「I'd like」や「here you are」等の多種多様な場面で用いる汎用性の高いイディオムをダイアログ (対話) の中で活用する。ペアでの買い物のロールプレイでは売る側と買う側に分かれ、活動を行う。活動の中で相手の意図を読み取り、自分の意図を的確に伝えあう、インタラクティブな会話が行なわれることを期待する。

## 8. 指導観

本単元では、買い物のロールプレイを行うことを目指し、商品として取り扱う語彙、会話の中で必要とされる不定冠詞、複数形等の文法事項、日常的に使用するイディオムを体験的に学べるよう指導する。

果物の単語は、これまでの新出語彙の導入と同様チャンツを使用する。英語の発音をチャンツのリズムに載せ、テンポよく復唱し記憶の定着を図る。

不定冠詞、複数形を使用した名詞の発音の変化については、会話の中で実際に使用し、生徒が気付けるよう工夫する。会話の中で果物の単語の発音がどのように変わっていたか、他の場面と比較して数量にどのような変化があったか、生徒に質問をする。その中で生徒自ら不定冠詞、複数形、数量の違いと発音方法を理解し活用できるよう指導する。

ダイアログは生徒がより身近に感じられるよう、実際の買い物の場面を想像しながら意味を推測していけるよう働きかける。またイディオムは果物に関する単語の導入と同様、発音や意味

を覚えスムーズに会話の中で使用できるようになることを目指し、チャンツを活用する。ダイアログの練習の際、生徒が1つ1つのフレーズに抑揚をつけ発音できるよう指導する。買い物という場の設定の中で、生徒が買い手や売り手という立場になりきり活動できるようにしたいからである。それぞれの立場になりきることで、会話がより自然なものになると考えられる。この自然な会話により、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感することができるであろう。

## 9. 単元（題材）の評価規準

### A 知識・技能

- ①数量を表す英語表現を理解し会話の中で使用できる。
- ②新出語彙に不定冠詞「a, an」、複数形の「s, es」が付いていることに気付き正しく発音できる。
- ③買い物に関する英語表現を知り、意味を説明することができる。

### B 思考・判断・表現

- ①新出語彙の日本語の意味を覚え、単語の読み書きができる。
- ②ダイアログの意味を覚え、正しく発音できる。

### C 主体的に学習に取り組む態度

- ①買い物のペア活動に楽しみながら積極的に参加している。
- ②買いたいもの、渡したい金額等、伝えたい思いや考えを英語で表現しようとしている。

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第3時）

### 1次：1・2時間目

学習内容： 買い物のロールプレイで使用する語彙の学習、複数形、不定冠詞、数量の学習。

学習活動：

- ・果物の英単語が書かれた単語カードを読む。
- ・単語の綴りをノートに書く。
- ・単数形・複数形に関するチャンツ（2つ）。
- ・英単語神経衰弱。
- ・数字の学習。

指導上の留意点： 集中力が続くよう、ゲーム感覚で取り組むことのできる活動を取り入れる。  
チャンツを通して単語の発音の違いに気付けるよう工夫し、体験的に単数・  
複数の違いを学習できるようにする。

評価規準（評価方法）：A②、B①（ノート、発話）

## 2次：3時間目（本時）

学習内容： 新出語彙の復習、数量の言い方の復習。

学習活動： ・ 語彙の復習（単語カードによる綴りの確認、単語の書き取り・チャンツ）。  
・ 数量の言い方の復習（数の歌、数字ゲーム）。

指導上の留意点： 数量の言い方や英単語などこれまでに学習した事項を思い出せるよう、こまめに質問をする。

評価規準（評価方法）：A①②、B①（ノート、発話）

## 3次：4・5時間目

学習内容： 新出語彙の復習、買い物のロールプレイで使用するイディオムの学習。

学習活動： ・ 語彙の復習（単語カードによる綴りの確認、単語の書き取り）。  
・ ダイアログの発音（チャンツ）。  
・ ダイアログの意味確認（英訳・日本語訳）。  
・ ペアでのダイアログの練習。

指導上の留意点： イディオムは訳と対応させながら説明し、意味を理解し覚えられるよう工夫する。発音しづらいフレーズは、ゆっくり繰り返し発音練習を行う。

評価規準（評価方法）：A③B②C①（ノート、発話）

## 4次：6時間目

学習内容： 新出語彙・イディオムの復習、ロールプレイ。

学習活動： ・ 果物の英単語・買い物に関するチャンツ。  
・ 買い物のダイアログで使用するイディオムの確認（英訳、日本語訳）。  
・ 買い物のペア活動。

指導上の留意点： ペア活動で言い表せる内容を広げるため、様々な果物や数量に置き換えて買い物の表現を練習する。

評価規準（評価方法）：B②、C①・②（発話）

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ①好きな果物、欲しい果物の数を英語で表現することができる。
- ②果物の数に応じて複数形・不定冠詞を付けて表すことができる。
- ③単語の発音、綴り、日本語による意味を覚え、活用することができる。

### (2) 本時の評価規準

- ①好きな果物、欲しい果物の数を英語で言うことができる（A①）。
- ②果物の数に応じて複数形・不定冠詞を付けて発音することができる（A②）。
- ③単語の発音、綴り、日本語による意味を覚え、読み書きすることができる（B①）。

### (3) 本時で扱う教材・教具

単語カード、単語カードを入れる箱、チャンツの音声データ、再生機器、点字器（点字板・パーキンス）、点字用紙、ノート、ローマ字表。

### (4) 生徒の実態と本時の目標

生徒 A の実態：

英語に関する背景知識が豊富で多くの動物や季節、気候などを表す英単語、挨拶に関する表現を知っている。英語への関心も高く、疑問に思ったことをすぐに質問することができる。積極的に発音をまねしたり、覚えたりしようとしている姿勢が見られる。

しかし集中力が持たず、長く同じ活動をするとうれいを表す。活動が切り替わったり好きな話題に変わったりすると持ち直し、積極的に取り組めるようになる場合もある。

本時の目標：

- ①好きな果物や欲しい果物の数を正しく英語で言い表すことができる。
- ②欲しい果物や好きな果物の数によって、複数形や不定冠詞を付けた形で発音することができる。
- ③英語で果物の名前を発音したり、綴りを読み書きしたり、日本語で意味を答えたりすることができる。

支援の手だて：

1 単語ずつ書き終わったら教師がノートを読み、正しく綴りを書けているか確認する。単語が読めない場合には、ローマ字の知識を活用しつつ発音を思い出せるよう働きかける。ローマ字表記の読み方を忘れていた場合には、ローマ字表を見るよう指示する。

集中力の切れそうな様子が見られる場合には、次の活動の予告をする等、モチベーションを保ち続けられるよう工夫する。

評価規準：

- ①果物の数量を正しくかつ明瞭に英語で発音している。
- ②果物の数に応じて複数形や不定冠詞を使い分けて発音している。
- ③単語の綴りを正しく書き、正確に発音し、意味を答えている。

生徒 B の実態：

発音や発表をする際、自信が無く小さな声になりがちであるが、知っていることや自信のあることに関しては、進んで発表できるようになりつつある。母音や子音で構成されているローマ字の仕組みも理解している様子が見られ、指定された文字のローマ字表記を言ったり、書いたりすることができる。

比較的に集中力が続きやすく、どの活動においても黙々と取り組んでいる様子が見られる。

本時の目標：

- ①好きな果物や欲しい果物の数を正しく英語で言い表すことができる。

②欲しい果物や好きな果物の数によって、複数形や不定冠詞を付けた形で発音することができる。

③英語で果物の名前を発音したり、綴りを読み書きしたり、日本語で意味を答えたりすることができる。

支援の手だて：

1 単語ずつ書き終わったら教師がノートを読み、正しく綴りを書けているか確認する。単語の発音や綴りの書き取りなど、できている部分に対してフィードバックを行い生徒が自信を持って活動に取り組めるよう働きかける。ローマ字表記の読み方を忘れている場合には、ローマ字表を見るよう指示する。

評価規準：

- ①果物の数量を正しくかつ明瞭に英語で発音している。
- ②果物の数に応じて複数形や不定冠詞を使い分けて発音している。
- ③単語の綴りを正しく書き、発音し、意味を答えている。

生徒Cの実態：

好奇心旺盛でどの活動にも積極的に参加しようとする態度が見られる。点字板を使用し、日本語であれば文字を読み書きすることもできる。

アルファベットは学習を再開したばかりである。どのアルファベットを使うか、点字でどの点を使うか等の指示があればローマ字で自分の名前を書くことができる。

体調の良い時には、ゆっくりではあるが英語で挨拶や単語を聞き取ってまねることもできる。しかしながら 2 学期末から先週まで入院しており、投薬の影響もあって学習活動は難しい可能性がある。出席する場合はチームティーチングのもう 1 人の支援を受けてできる範囲で参加する。

本時の目標：

- ①教師の支援を受けつつ好きな果物、欲しい果物の数を英語で言うことができる。
- ②果物の数に応じて不定冠詞や複数形を付けた形の発音を聞き取りまねることができる。
- ③教師の支援を受けつつ果物の単語の発音、綴り、日本語による意味を知り、答えることができる。

支援の手立て：

体調に合わせて活動内容を選択する。単語の発音や綴り、日本語による意味を口頭で伝え、特に聞くことにより学習できるよう工夫する。アルファベットの形をしっかりと認識できるように、単語カードに触れる際には時間を取る。

評価基準：

- ①好きな果物、欲しい果物の数を英語で言おうとしている。
  - ②不定冠詞や複数形を付けた形で果物の単語を聞き取ってまねている。
  - ③単語の綴り、発音、日本語による意味を口頭で繰り返している。
- (5) 本時の学習過程 ※本日は3名中1名のみ参加となったため、授業内容を一部変更する。

導入

時間： 10分

学習内容・学習活動：・英語による調子・天気・日付・曜日の確認。  
・果物に関するチャンツ二つ。

指導上の留意点及び支援の手だて等：

天気や曜日を尋ねる順番を入れ替えて質問し、その答えを元に単語やイディオムの理解ができていないかを確認する。チャンツで発音の難しい単語やフレーズは、繰り返し発音練習を行う。フレーズを繰り返し、生徒に日本語の意味を聞くことで単語やイディオムの理解度を図る。

評価規準（評価方法）：11. (2) ②、③

展開

時間： 30分

学習内容・学習活動：・単語の読み取り、ノートへの書き取り。

・単語神経衰弱。

・数字の復習（数字の歌、2・3・4・5の倍数、奇数・偶数を順に言う活動）。

指導上の留意点及び支援の手だて等：

1 単語ずつ綴りはこまめに確認する。間違っている場合にはどこが違っているか生徒に質問をし、自ら気付けるよう声掛けを行う。生徒の集中力が切れないよう、テンポ良く活動を行う。

評価規準（評価方法）：1 1. (2) ①、③

まとめ

時間： 10分

学習内容・学習活動：・ノートに書いた単語の綴りの音読。

・数字を言う活動（1から順に言う活動と、10から逆に言う活動）。

指導上の留意点及び支援の手だて等：

単語を読めない場合には、綴りを読み上げるよう指示する。ローマ字の知識を活用し単語を推測できるよう働きかける。

評価規準（評価方法）：1 1. (2) ①、③

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

生徒Aの右にT1、その右に生徒Cが同じ方向を向き座る。T2は生徒Cのそばに座る。

教師の右横の机に教材・教具を置き、適宜生徒に提示する。

peach: 桃

orange: オレンジ

banana: バナナ

mango: マンゴー

lemon: レモン

melon: メロン

cherry: さくらんぼ

### チャンツ1

Give me a peach.

Give me a banana.

Give me a mango.

Give me a lemon.

Give me a melon.

Give me a cherry.

Give me an orange.

### チャンツ2

I want a peach.

I want two oranges.

I want three bananas.

I want four mangoes.

I want five lemons.

I want six melons.

I want many cherries.

### ダイアログ

A: I'd like two lemons and a peach, please?

B: OK. Here you are.

A: How much is it? How much is it?

B: It's three dollars all together.

# 家庭科学習指導案

指導者 T1 羽地 円  
T2 国領 規子

1. 日時 令和3年〇月〇日(〇) 第3時限(10:50~11:40)
2. 対象 中学部1・3学年 2名(特例1の過程)
3. 場所 中学部ホームルーム教室
4. 単元名 「バランスのよい食事を考える」
5. 単元の目標
  - ・6つの基礎食品群から食品と栄養素の関係、栄養素の働きを理解する。
  - ・家庭での食事や給食を6つの基礎食品群に分類し、栄養バランスの良い食事であるかを調べることができる。
  - ・1回の食事で不足している栄養素がある場合、バランスの良い食事にするためにどのような工夫ができるかを考えて発表する。

## 6. 生徒観

本授業の生徒は、1年生女子1名、2年生男子2名、3年生女子1名の4名で構成されている。しかし現在、2年生男子2名は諸事情により参加しておらず、食生活分野の授業は1・3年生の女子2名で行っている。

生徒全員が全盲であり、点字を使用している。

授業に対する取り組み姿勢は積極的であり、教材を実際に触ったり、実物を手に取るなどの課題ではとても意欲的で、今までの経験などを自ら振り返り想像力を膨らませて質問したり、意見や答えを発表することができる。

座学だけでなく、実際に触り体験する教材や、実習などを楽しみに授業に取り組む姿勢が見られる。

## 7. 教材観

「食生活と自立」という学習の中で、人間にとって食事は生命や健康の維持、活動や成長をしていくという重要な役割を担っている。普段の食生活を振り返り、中学生にとって必要な栄養素や食事のとり方を知り、どのようなメニューの組み合わせや食品をとることがバランスのよい食事になるのかを知る。

家庭での食事を調べて多くの食品を取ることができているか、栄養バランスがとれているか、給食のメニューから1食を選び、バランスのよいメニューになっているかなどを調べる。バランスがよくない食事の場合はどのような工夫ができるかを考えて、よりよい食事に近づけていく工夫をし、自分の考えを発表し、意見交換ができるようにする。

バランスのよい食事を考えるときに、どの栄養素を多く含むかによって食品を6つのグループに分けた「6つの基礎食品群」を使い、過不足なくとることで栄養バランスのよい食事がとれることを学習する。

食生活やメニューに関心を持ち、家庭での食事や外食などにおいても、自らバランスのよい食事やメニューの選択などができる力を身に付けさせたいと考える。

その他に、野菜を実際に触り、匂う、ちぎる、割く、すりおろすなどして水分や食物繊維があることを確認したり、硬さや柔らかさ、香りなどを触り観察し、新鮮な食品の見分け方を知る。使いやすいように工夫された調理道具なども紹介し体験したり、今後の買い物学習や将来の生活（家事など）に役立つようにもつなげていきたい。

## 8. 指導観

生徒2名とも意欲的に取り組み、好奇心旺盛である。

1年生女子は集中力が続かない場面が時折あるため、気が散っている様子が見られた時は、(T1) または (T2) が横に行き丁寧に言葉かけをしたり、新たな質問や課題を与えるなどして集中力や注意力が続くように指導する。色々なことに興味関心を持ち、知識も豊富であり、もっと知りたいという前向きな気持ちがあるのでその意欲を大事にするために質問などには丁寧に答えていくように心掛けている。

3年女子は、質問に対する考えなどを発表するのに時間がかかることがあるので、ゆっくりと待つ時間を作ることや、例となる考えなどをいくつか伝えてどんな意見でも言いやすい雰囲気作りを行う。3時限目の授業の号令を担当させ、声を出してリーダー的に活躍できる場面を作るようにする。

調べたり考えたりする場面では、一緒に考える部分と各自で考える部分をつくり、自分の意見が発表しやすい雰囲気作りや、努力している部分を言葉で伝え評価することを心掛ける。

毎回の授業で、体験（食材を触るなど）を1つはできるように教材を準備し、分かりやすい説明を心掛けて観察や作業を楽しんで行えるように時間を確保できるようにする。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 食事に関心を持ち、食事の役割について理解している。 ② 5大栄養素のはたらきや、多く含まれる食品について理解している。 ③ 6つの基礎食品群の食品の分け方を理解して	① 中学生にとって必要な栄養素や食事の取り方を理解している。 ② メニューを6つの基礎食品群を使って食品ごとに分類しようとしている。 ③ 相手の意見を聞いたり、自分で考えたことを伝えている。	① 家庭や給食のメニューが栄養バランスのよいメニューであるかを調べようとしている。 ② 不足している栄養や食品を補うために工夫できることを考え、今後の食生活に生かそうとしている。

いる。	④ 電気ポットや調理器具の使い方を理解し、実践できる。 ⑤ 作業内容を理解し、指示されたとおりに作業することを目指している。	③ 体験する授業に積極的に参加し、自主的に体験しようとしている。
-----	---	----------------------------------

10. 単元の指導と評価の計画（全14時間、本時は第12時）

次	時	学習内容・（●）学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の食生活を振り返る</li> <li>●点字レシピブックを見て電子レンジだけでも料理ができることを知る</li> <li>●調理実習のメニューを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字レシピブックを配付する。材料や作り方を確認し、調理実習のイメージづくりをする。</li> <li>・点字レシピブックから電子レンジで時間短縮して調理ができることを伝え、実習で電子レンジを活用できるかを一緒に考える。</li> <li>・旬の食材の良い点を説明し、旬の食材を使ったメニュー選びができるように助言などを行う。</li> </ul>	A① B③⑤ 発表 音読 話し合い
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習のメニュー決定</li> <li>・レシピ作り</li> <li>●レシピの記入</li> <li>●食材について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は季節に合ったものか、調理方法は難しくないか、飲み物はどうするかなど話し合うべき事項を伝えながら、2人で話し合いを進めていけるようにする。</li> </ul>	A① B①③ ノート 発表 話し合い
	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習メニューの変更</li> <li>・レシピづくり</li> <li>●新たなレシピを考える</li> <li>●保存食品について知る（触る授業）</li> <li>●計量方法の実践（調理室）（生徒Aが欠席のため、生徒Bのみ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習ができないため、できるようになった時まで日持ちするような食品について考える。</li> <li>・カップ麺やレトルト食品が日持ちするものであることを説明し、メニューを考える。</li> <li>・様々なサイズや形状の計量カップを準備し、使いやすさを体験させる。</li> <li>・その際、机上の道具の置き場所を確認させる。</li> </ul>	A① C③ ノート 発表 実習

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割</li> <li>・食習慣</li> <li>●朝食のメニューを発表する。朝食を食べないと起こる弊害や、食事時間と生活リズムについてなど参考資料から知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の食生活や1日の生活の様子を時系列を追って考えさせる。</li> <li>・T1, T2の朝食を聞いて、栄養バランスがよいかを4人で考え意見交換をする。よい栄養バランスの食事のイメージを膨らませる。</li> </ul>	<p>A① B①③ ノート 発表 話し合い</p>
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5大栄養素、水分、食物繊維</li> <li>・食物繊維を触って知る</li> <li>●5大栄養素とそのはたらきや多く含んだ食品を知る。</li> <li>●しいたけ、生姜の観察 触る、匂う、ほぐす、生姜はすりおろして繊維を確認し、水分がたくさんあることも知る。 (触る授業)</li> <li>●タイマーの使い方を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物繊維や水分を触り理解できるように、しいたけ、生姜を準備し、手で割いて繊維を感じたり、生姜をすって食物繊維、水分などを触り理解させる。</li> <li>・盲人用のものだけでなく、健常者が使うキッチンタイマーの使い方を練習して一人でも使えるように指導する。(継続していく)</li> </ul>	<p>A② B⑤ C③ ノート 発表 話し合い 実習</p>
9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト (5大栄養素、そのはたらきなど)</li> <li>・「中学生に必要な栄養」</li> <li>・食事摂取基準を知り、年代、性別などによりエネルギーや栄養素の量の基準が異なることを理解する。</li> <li>・給食メニューのカロリーについて知る。</li> <li>●6つの基礎食品群の分類方法があることを学習する。各自の食事メニューから1つ選びを6つの食品群に分ける。</li> <li>・(触る授業) 計量スプーン(すり切り用のスライド付き)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは発問形式で、点字用紙に記入させ、終了後、答え合わせをして復習する。</li> <li>・2月の給食献立(カロリー、栄養素、食材などが書かれたもの)を栄養士さんから事前に入手し、必要な箇所を点字プリントにして配布する。</li> <li>・マンツーマンで教師が付き、食品を6つの基礎食品群に分ける作業を1つずつ一緒に確認しながら行う。</li> <li>・質問や疑問には丁寧に答える。</li> <li>・1回の食事でバランスよく栄養を取することは困難であるので、どのような工夫が考えられるかを話合う。</li> </ul>	<p>A② B①②③ C①② 発表 ノート 話し合い</p>

		・タイマーの使い方の復習		
本時	11 ・ ⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの基礎食品群の復習</li> <li>●家庭のメニューを6つの基礎食品群に分ける（前回の続き）</li> <li>●不足している栄養素は何か調べる。</li> <li>・不足している栄養素を補うためにどんな工夫ができるかを考える。</li> <li>●意見を発表し合う。（触る授業）</li> <li>・キャベツ、白菜、パスタ</li> <li>・次週の実習に向けた説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの基礎食品群について、発問しながら内容の確認を行う。</li> <li>・家庭のメニューが栄養バランスが良いかを調べる。難しそうであれば、ひとつずつ一緒に分けていく。</li> <li>・バランスをよくするために工夫できることを、6つの基礎食品群を再度確認しながら一緒に考える。</li> <li>・キャベツ、白菜、パスタの準備をする。</li> <li>・次週、調理実習練習（試食無し）で使用する調理器具や、レシピの確認を行う。</li> </ul>	<p>A③ B② C①②③ 発表 ノート 話し合い 実習</p>
	13 ・ 14	<p>A：調理実習（できる場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の説明</li> <li>●実習 おにぎり カップ焼きそば お茶</li> <li>●振り返り</li> <li>●後片付け</li> </ul> <p>B：調理実習練習（実習ができない場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●レトルトご飯を温め、おにぎりを握る。</li> <li>●カップ焼きそば、カップ麺に必要な湯の量を知る</li> </ul>	<p>A実習できる場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室に来た生徒から身支度、手指の消毒などの準備をさせる。</li> <li>・体調、忘れ物などの確認をする。</li> <li>・調理手順に従い、T1, T2がマンツーマンで生徒に付き、安全に注意しながら調理の指導を行う。</li> <li>・机上の道具の置き場所などを確認させる。</li> <li>・自分で作ったものは自分で食することを守り、試食を行わせる。</li> <li>・T1, T2は、フェイスシールド、マスク、三角巾、エプロン、手袋、手指消毒などの準備を行い、換気をして実習を行う。</li> <li>・後片付けをさせる。</li> </ul> <p>B：実習ができない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の道具の置き場所などを確認させる。</li> <li>・電子レンジでのやけどに気をつけてレトルトご飯を温めさせる。おにぎりの握り方を練習する。</li> </ul>	<p>B④⑤ C③ 実習</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カップ麺の中身（具材や付属品など）を知る</li> <li>●電気ポットの使い方を知る</li> <li>●お茶の入れ方（ティーバッグ、粉末、茶葉など）を練習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カップ焼きそばに必要な湯の量を知り、電気ポットで必要な分量の湯を沸かすことを体験させる。やけどに気をつけ、教師と一緒にやる。</li> <li>・市販されているお茶の種類を知り、湯の温度を低めにしてやけどに気をつけてコップに注ぐ。</li> </ul>	
--	--	--	--

## 1.1. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・6つの基礎食品群から食品と栄養素の関係、栄養素のはたらきを理解することができる。
- ・家庭での食事に使われている食品を書き出し、それらを6つの基礎食品群に分類することができる。
- ・6つの基礎食品群に分類した食品から、家庭での食事メニューがバランスがよいものであるか、不足しているものがあるかを調べ、よりよくするための工夫を考えることができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・食事メニューの食品を6つの基礎食品群に分類する方法を理解し、実践できたか。(C1)
- ・バランスのよいメニューにするために、どんな食品やメニューを組み合わせればよいかを考えることができたか。(C3)
- ・6つの基礎食品群がバランスの良い1日の食事を考えるときに役立つものであることを理解できたか。(C3)
- ・自分の考えを発表したり、友だちの意見を聞きメニューや食品に関心を持つことができたか。(B2)

### (3) 生徒の実態と本時の目標

生徒名	生徒の実態	本時の目標
A	1年生徒 眼疾：未熟児網膜症 視力：全盲 実態： ・意欲的に取り組む姿勢があり、積極的に提示されたものを触って、知りたいという気持ちが高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの基礎食品群が、食品を同じような栄養素を含むグループに分けたものであることを理解している。</li> <li>・夕食メニュー、給食メニューを6つの基礎食品群に分類することができる。</li> <li>・栄養素などの過不足があるかを調べることができ、発表することができる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことや考えを積極的に発表でき、知りたいことを意欲的に質問することができる。</li> <li>・順番を待つことや、他の生徒の発表や意見を静かに待って聞くことが苦手である。</li> <li>・落ち着いて一つ一つの作業を丁寧に、主体的に行えるようになることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスのよいメニューにするための工夫を考えることができ、意見を発表することができる。</li> <li>・落ち着いて話を聞き、作業に取り組むことができる。</li> <li>・タイマーで時間を計ることができるようになる。</li> <li>・野菜を触る体験では、指示をしっかりと聞き、行動できる。</li> </ul>
B	<p>3年生徒 眼疾：未熟児網膜、網膜剥離 視力：左：光覚 右：光覚 実態：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組む姿勢が見られる。</li> <li>・知っていることや学んだことなどについては発言や発表ができるが、分からないことや、自信のない時には、言葉が出なくなる。</li> <li>・提示した教材などにはとても興味があり、積極的に触ったり、質問や意見を言うことができ、楽しんで授業に参加することができる。</li> <li>・考えや思いを自分の言葉で発言できるようになることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの基礎食品群が、食品を同じような栄養素を含むグループに分けたものであることを理解している。</li> <li>・夕食メニュー、給食メニューを6つの基礎食品群に分類することができる。</li> <li>・栄養素などの過不足があるかを調べることができ、発表することができる。</li> <li>・バランスのよいメニューにするための工夫を考えることができ、意見を発表することができる。</li> <li>・意見を求められたときに、考えを声に出して発表できるようになる。</li> <li>・タイマーで時間を計ることができるようになる。</li> <li>・野菜を触る体験では、感じたことなどを発表することができる。</li> </ul>

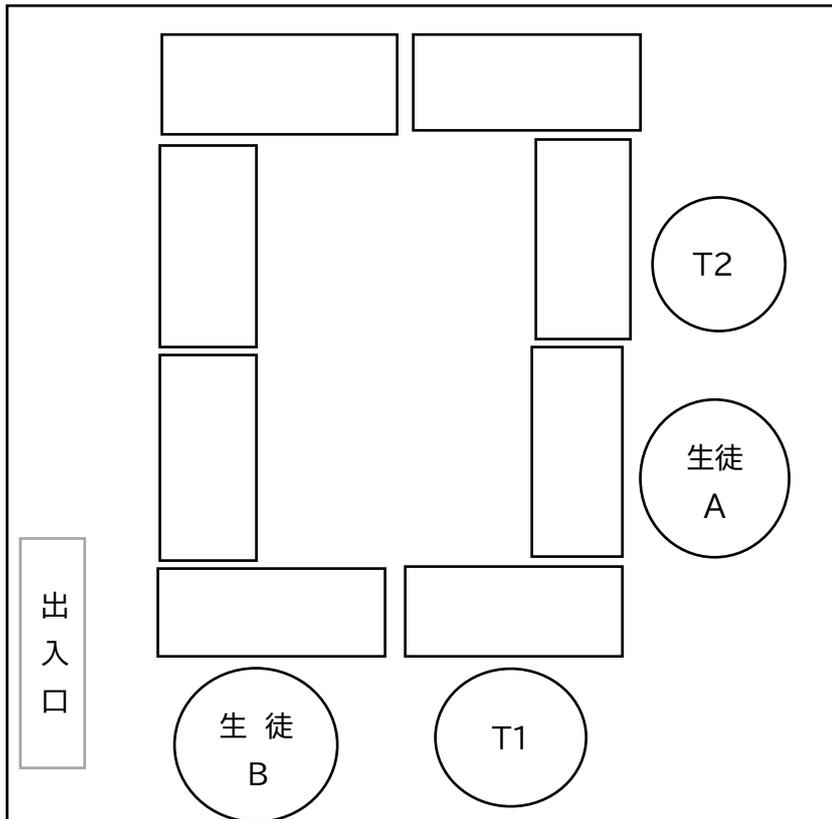
#### (4) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・前回までの復習</li> <li>・6つの基礎食品群</li> <li>・本時の説明をきく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりと終わりのあいさつを交互に担当させ、声を出し、気持ちを前向きにし、意欲的に授業に参加できるようにする。</li> <li>・ファイル、パーキンスなどの準備物の確認。</li> </ul>	C1

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問により前回の内容を確認する。</li> <li>・ 6つの基礎食品群を使ってメニューのバランスがよいかを引き続き調べる学習をすることを説明する。</li> </ul>	
40分 展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での1食（夕食）のメニュー、食品などを書いたノートを確認しながら食品を6つの基礎食品群に分類する。</li> <li>・ 1人ずつ発表し、1～6群に食品を分類できているかを一緒に確認する。</li> <li>・ バランスのよいメニューであるかを確認する。</li> <li>・ 不足している群があればバランスのよいメニューにするために、栄養を補うための追加メニューなどを考える。意見を発表し合う。</li> <li>・ 2月24日の給食メニューを6つの基礎食品群に分類し、栄養バランスを調べる。</li> </ul> <p>（触る授業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャベツ、白菜の食物繊維を確認する。</li> <li>・ パスタの種類を知る。</li> <li>・ キッチンタイマーで体験する時間を計る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回学習したノート、給食献立プリントを机上に準備させる。</li> <li>・ 生徒BにT1が付き、生徒AにT2が横について質問などに答えながら作業を進めさせる。</li> <li>・ 6つの基礎食品群に分類する時に難しい様子や質問などが出れば、考えるためのヒントを与えて考えさせる。</li> <li>・ 発表することが難しそうであれば間違っていることも大丈夫ということ伝えて、発表しやすい雰囲気を作るようにする。</li> <li>・ 生徒が考えた食品について、補足の情報（多く含む栄養素や色、形、匂いなど）を伝えて、知識や理解を深めさせる。</li> <li>・ 分類が間違っていれば指導する。</li> <li>・ 質問がないか、確認をしながら授業を進めていく。</li> <li>・ 考えて発表した内容は肯定し、意見の言いやすい雰囲気をつくる。</li> </ul> <p>（触る授業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファイル、プリントなどを移動させて、机上にスペースを空けるように指示する。</li> <li>・ キャベツ、白菜は1枚ずつ、パスタは1種類ずつ準備し、容器に入れて渡</li> </ul>	B2 C1 C3

		<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除菌ペーパーの準備をし、実習後に手を消毒する。</li> <li>・触る、匂う、割くなどの体験をさせ、食物繊維があるかを手で割いて確認させる。</li> <li>・パスタの種類を知る。</li> <li>・キッチンタイマーを使う練習を兼ねて、(触る授業)の時間を各自で7分設定する。</li> </ul>	
5分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> <li>・次回の内容について連絡</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の食事や給食がバランスのよいものであったか発問する。</li> <li>・1食のメニューでバランスのよいメニューにすることは難しいが、1日を通してバランスのよい食事をとる工夫ができることを理解できたか、確認する。</li> <li>・友だちの発表に関心を持ち、聞くことができたか。</li> <li>・次回の集合場所、持ち物、実習内容についての説明。</li> </ul>	B2 C3

(5) 座席表



# 「国語」（ニュースの要点を見つけよう）学習指導案

指導者 T1 鮫島 久弥  
T2 内山 優花  
T3 杉本 陽子

1. 日時 令和3年〇月〇日（〇） 第6時限（14:30～15:20）
2. 対象 高等部普通科1・2・3年 B類型 10名
3. 場所 普通科 B1教室
4. 単元名 「ニュースの要点を見つけよう」
5. 単元目標
  - ・音声から話の要点を聞き取ることができる。
  - ・文章から話の要点を読み取ることができる。
  - ・自分の意見を伝えることができる。

## 6. 児童生徒観

本学級は3学年合わせた女子3名、男子7名の複式学級である。全員に視覚障がいがあり、5名が全盲で5名が弱視である。そのため、使用する文字様式も6名が点字、4名が墨字である。「今何をすればいいか」が明確である場合は積極的に授業に参加することができる。国語に苦手意識を持っている生徒はいるものの、俳句などの授業では、俳句を作る楽しさを感じ、自由に想像力を働かせていた。聞く力に関しては、以前の授業では積極的にニュースを聞き取ろうという姿勢があり、ニュースの内容を理解することは、支援があれば理解できていた。発表することに関しては苦手な生徒が多く、大きな声が出ない生徒も複数名いる。発問内容を理解すれば積極的な挙手が見られる。

## 7. 教材観

本校の生徒は視覚障がいがある生徒たちである。視覚情報ではなく、聴覚情報で周りの情報を入手し、それを取捨選択する必要がある。そのため、学習指導要領国語「聞く力」の「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。」が特に重要であると考え。社会に出る際には多くの情報の中から、正しい情報、自分に必要な情報のみを抜き取る必要がある。しかし、例としてニュースを聞き取るだけでも、難しい熟語や複数の話者の内容が混ざり合うなど、非常に困難である。そのため、多くの情報の中から、要点を抜き出す練習が必要だと考え、新聞記事を利用して教材としている。生徒に身近な題材を持つことにより、興味関心を引き出すことができると考える。この題材を通して、要点を見つける力だけでなく、時事的内容のニュースを得ることの大切さや、「大人になる」とはどういうことかも考え、これからどのようなことを身につけなければいけないかなどを話しあうことができると考える。

## 8. 指導観

「今何をすればよいか」を明確にするために、「聞く時間」「メモをする時間」「質問に答える時間」「問題を解く時間」という場面ごとの言葉かけを意識する。できるだけ生徒が主体的な取り組みができるように、発問を多くし、発言できる場面を増やす。生徒が話の要点を見つけにくい場合は、5W1Hを意識して読み取るように言葉かけを行う。発表することが苦手な生徒にも、自信を持って発表できるように、「間違っているけど大丈夫、なんでも発表していいよ」などの言葉かけをし、生徒が発表しやすい雰囲気を作り、苦手意識を取り払うようにする。授業の内容理解は、全員で考える部分と各自で考える部分を作り、各自で考える部分は生徒の学力に合わせて、問題の量やレベルを変えて、生徒一人ひとりが「できた」と感じられるように工夫する。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、様々な表現についてその効果を吟味し自分の表現や推敲に役立てたりして、話したり文章にまとめたりしようとしている。	① 「読むこと」において、文章の要点を押さえながら、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。 ② 「話すこと」において、様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べている。	① 積極的に表現を工夫し、今までの学習を生かして意見を述べようとしている。 ② 粘り強く今までの学習を活かして文章の要点を見つけだそうとしている。

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全3時間、本時は第1時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースを聞いてメモを取ろう。</li> <li>・ 要点を見つけよう。</li> <li>・ ニュースの5W1Hを読み取ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞き取り</li> <li>・ 要点を記録する。</li> <li>・ 文章からニュースの要点を読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聞いた後にメモを取るように言葉かけをする。</li> <li>・ どのようなメモを取ればいいのか、5W1Hを復習して伝える。</li> <li>・ 時間を決めて書く時間を取る。</li> <li>・ 難しい言葉があっ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A①（観察）</li> <li>・ B①（観察）</li> <li>・ C②（観察）</li> </ul>

				たかを聞き、補足する。	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースのまとめ文を作ろう。</li> <li>・文章を読み取ろう。</li> <li>・自分の意見を考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1H のキーワードをまとめ文にする。</li> <li>・文章からニュースの詳細を読み取る。</li> <li>・ニュースを理解した上で自分の意見を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えは一つではないことを伝え、書きやすくなるように促す。</li> <li>・どのような意見でも書いて大丈夫だと言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B①（観察）</li> <li>・C①（観察）</li> <li>・C②（観察）</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を考えよう。</li> <li>・自分の考えを発表しよう。</li> <li>・他者の意見を聞こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを理解した上で自分の意見を考える。</li> <li>・自分の考えを発表する。</li> <li>・他者の話を聞き、様々な考えを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表することがプレッシャーにならないような言葉かけを行う。</li> <li>・他の生徒が話している場合は聞くように言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A①（観察）</li> <li>・B②（観察）</li> <li>・C①（観察）</li> </ul>	

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・ニュースを聞いて要点を見つけることができる。
- ・ニュースの要点を 5W1H で書くことができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・文章の要点を押さえながら、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。
- ・粘り強く今までの学習を活かして文章の要点を見つけだそうとしている。

### (3) 本時で扱う教材・教具

- ・iPad（ニュース音源）
- ・スピーカー
- ・本文用紙、問題用紙

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全盲。</li> <li>・授業中の積極的な発言が見られる。</li> <li>・何をすればよいのかわからない場面では私語もみられる。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団への参加の基礎に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・指導者が話す時は聞くことをあらかじめ伝える。</li> <li>・私語がある場合は指導者が黙ってやめるのを待つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞く姿勢が見られる。(C②)</li> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全盲。</li> <li>・授業に興味関心が少ない場合には眠ってしまうことがある。</li> <li>・自分の考えを書くことは得意だが、発表は苦手である。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して授業に取り組むことができる。</li> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・指導者が話す時は聞くことをあらかじめ伝える。</li> <li>・適宜生徒に発問することで、授業への積極性を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞く姿勢が見られる。(C②)</li> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱視。</li> <li>・授業は真面目に聞き、聞き取る力がある。</li> <li>・自分の考えを書く、または発表することは苦手である。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・メモが書けている場合は質問することで発言を促す。</li> <li>・色々な答えがあるからどんな答えでも大丈夫だと言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・自分が書いたメモを発表しようとする。(C①)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全盲。</li> <li>・何をすればよいのか分かっている場合は、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して授業に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞く姿勢が見られる。(C②)</li> </ul>

	<p>授業に積極的に参加し、自分の意見を書き、発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の要点を聞き取ることが難しい場合がある。</li> <li>・授業内容が分からない場合はひとりごとを言う場合がある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団への参加の基礎に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私語がある場合は指導者が黙ってやめるのを待つ。</li> <li>・質問や分からないことがある場合は手を挙げるように言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱視。</li> <li>・授業内容が分かる時は授業に積極的に参加し、発問しても自主的な挙手が多い。</li> <li>・自分の考えを書くことは苦手である。</li> <li>・どうすれば良いか分からなくなった場合は、鉛筆を置いてしまうことがある。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・色々な答えがあるからどんな答えでも大丈夫だと言葉かけをする。</li> <li>・質問や分からないことがある場合には手を挙げるように言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞く姿勢が見られる。(C②)</li> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱視。</li> <li>・授業に集中する姿勢が見られる。</li> <li>・発問にも積極的に挙手し、発表することができる。</li> <li>・話の要点を見つけることは苦手である。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・要点を見つけることが難しい場合には、5W1Hを振り返るように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>

	<p>内容】 ・状況に応じたコミュニケーションに関する こと。</p>			
G	<p>・全盲。 ・授業に集中する姿勢が見られる。 ・発問にも積極的に挙手し、発表することができる。 ・自分の考えを文章にまとめることが苦手である。 【関連する自立活動の内容】 ・言語の受容と表出に関すること</p>	<p>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。 ・自分が書いたメモを発表することができる。 ・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</p>	<p>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。 ・自分で考えをまとめることが難しいと言った場合でも、ヒントは出しつつ、どのような答えでもよいので自分でまとめるように伝える。</p>	<p>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②) ・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</p>
H	<p>・弱視。 ・話を聞き取り、要点を理解することができる。 ・自分の考えをまとめ、発表することが苦手である。 【関連する自立活動の内容】 ・言語の受容と表出に関すること</p>	<p>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。 ・自分が書いたメモを発表することができる。 ・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</p>	<p>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。 ・自分で考えをまとめることが難しいと言った場合でも、ヒントは出しつつ、どのような答えでもよいので自分でまとめるように伝える。 ・色々な答えがあるからどんな答えでも大丈夫だと言葉かけをする。</p>	<p>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①) ・自分で考えをまとめようとしている。(C①) ・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</p>

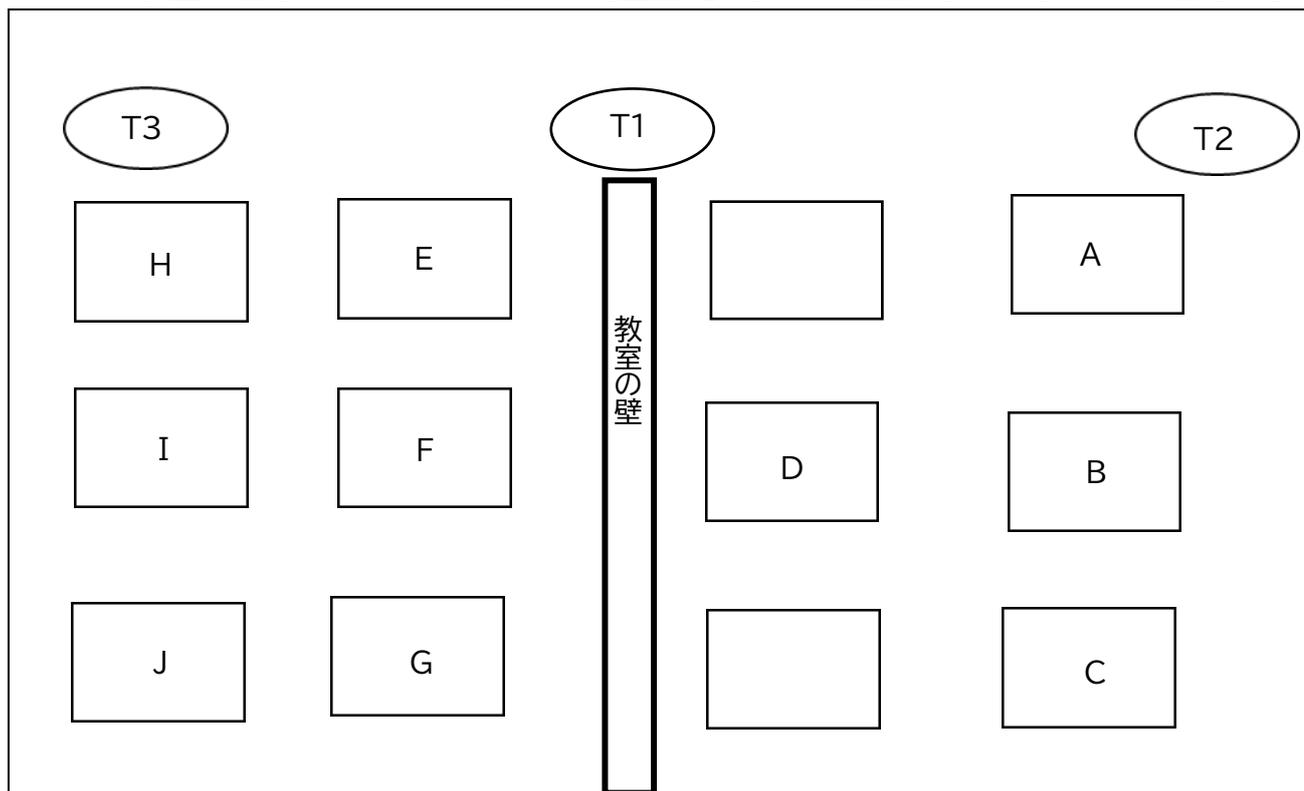
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱視。</li> <li>・授業に集中する姿勢が見られる。</li> <li>・話を聞き取り、要点を理解することができる。</li> <li>・自分の考えをまとめ、発表することが苦手である。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・色々な答えがあるからどんな答えでも大丈夫だと言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全盲。</li> <li>・「何をすればよいのか」が分からない時は授業に集中することが難しい場合もある。</li> <li>・自分の考えを言葉にまとめることが苦手である。</li> </ul> <p>【関連する自立活動の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容と表出に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを聞いて、要点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・本文を読み、5W1Hを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をすればよいのかを明確にするように言葉かけをする。</li> <li>・指導者が話す時は聞くことをあらかじめ伝える。</li> <li>・私語がある場合は指導者が黙ってやめるのを待つ。</li> <li>・色々な答えがあるからどんな答えでも大丈夫だと言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して話を聞く姿勢が見られる。(C②)</li> <li>・ニュースを聞いてメモを書こうとしている。(A①)(C②)</li> <li>・本文を読み、5W1Hを読み取ろうとしている。(A①)(C②)</li> </ul>

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの内容に関連した話題を聞く。</li> <li>・ニュースを聞く。</li> <li>・ニュースの内容の要点を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースの内容に興味関心が持てるような話題を用いる。</li> <li>・ニュースを聞くときは音を立てないようにするため、聞き終わった後に要点を書くように言葉かけをする。</li> <li>・一度ニュースを聞いて、わか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースを集中して聞き、要点を書くことができる。(観察)</li> </ul>

		<p>らない言葉があるかを聞き、あれば説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたことをメモする時間をあらかじめ決めて、その時間内に書くように言葉かけをする。</li> <li>・5W1Hを復習し、5W1Hを意識して聞き取るように伝える。</li> </ul>	
35分 展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ書いた要点を発表する。</li> <li>・文章から話の要点(5W1H)を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表した内容は肯定する。</li> <li>・聞いたことをメモする時間をあらかじめ決めて、その時間内に書くように言葉かけをする。</li> <li>・5W1Hが入っていない場合もあることを伝える。</li> <li>・5W1Hを一つずつ区切りながら、考えて答え合わせをしていく。</li> <li>・色々な答えの書き方があることを伝え、発表を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が書いた要点を発表することができる。(観察)</li> <li>・5W1Hを用いて要点を見つけようとしている。(観察)</li> </ul>
5分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のニュースでわかったことの振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hを一つずつ発問し、生徒が答える形とする。</li> <li>・時間があれば、成人してできること、できないことの確認や、このニュースを聞いてどう思ったか感想を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言しようとしている。(観察)</li> </ul>

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



# 自立活動 学習指導案

指導者 T1 田頭 伊織  
T2 武波 昭  
T3 加賀 一郎

1. 日時 令和3年〇月〇日(〇) 第2時限(9:50~10:40)
2. 対象 高等部普通科1・2・3年 B類型 5名
3. 場所 普通科 B2教室
4. 単元名 「意外と身近なSDGs」
5. 単元目標
  - ・題材から要旨を選択することができる。
  - ・要旨から自分の考えをまとめることができる。
  - ・自分の考えを発表することができる。

## 6. 生徒観

本授業は、1年生男子3名、2年生男子1名、3年生男子1名の5名で構成された複式学級である。全員に視覚障がいがあり、4名が全盲、1名が弱視である。そのため、授業での読み書きにおいては、4名が点字でパーキンスブレイラーを、1名が墨字でノートパソコンを使用している。

自己表現の方法や発表ということに関して課題をもつ者もいるが、皆が想像力や体験してきたことを活用し、意欲的に授業に参加することができている。また、端的ではあるが、要点を捉えた質問を行い、発表者の要旨を掘りさげて活発な意見交換へとする力も備えている。

## 7. 教材観

高等部普通科B類型では、視覚障がいと向き合い、日常生活に必要な学習、生活習慣の向上及び家庭生活、社会生活に適応する能力を高めるために週4時間の自立活動が設定されている。卒業後の進路を見据え、自立活動の目標と内容である6区分27項目では、特に人間関係の形成とコミュニケーションという2つの区分を軸に、社会を生き抜いていく力を身に付け、高めていくことが重要であると考え。国語において聞き取る力、数学においては情報の整理といった学習は既知であり、国際目標という題材であっても、遠く難しい課題ばかりではないという事例を学ぶことで、社会参加を身近なものとして捉えられるように単元を設定した。

この題材を通して、時事的なニュースに触れるということだけでなく、自分でできることはどういうものかと考え、他者の発表を参考とし、身につけていきたい力について話しあう環境の醸成につなげていきたい。

## 8. 指導観

本時の指導にあたっては、自分の好きなことを努力していくことの先にも、社会参加の道が開けているということを理解させたい。どの生徒も意欲的で好奇心旺盛であり、授業ごとの目的を明確に示せば目標に向けて努力することができる。様々なことに興味関心を持ち、知識も表現能力も豊かであるため、周囲が気になりすぎて注意がそれこともある。そのような様子が見られたときは、指導者が横に行き言葉かけをしたり、設問を繰り替えして考察を促したりすることで、集中力や注意力が続くよう支援を行っている。生徒の主体的な取り組みを促すため、授業の前半にアイスブレイクを用いた共有体験の積み重ねを目的とし、既存の昔話を素材として接続詞を区切りとし内容を創作発表するという取り組みから、個々の発言ができる場面を作っている。話の接続を意識して文章の流れを考える、また、自分の使ってみみたい接続詞が採用されていき展開が多様化していくということから、積極的に発表できるようになってきている。授業の主題は、自己紹介や実習先での挨拶、好きなことや余暇に取り組んでいることのお誘いといった身近なテーマを用いた個人のプレゼンテーションと聴者からの良かったところ発表、グループ全体の共通意見への昇華という流れを意識している。そうすることによって、生徒一人ひとりの学習を深め、他者を認めて発言していけるような環境作りを心掛けている。

## 9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や状況に応じて説明事項や言葉遣いを工夫したり、様々な表現についてその効果を考えて自分の言葉として話したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題の要点を軸とし、聴者に伝わりやすいように内容を簡潔にまとめることができる。</li> <li>・他者の発表を聞き、自分の考えを理路整然と発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を生かして、積極的に発表や質疑応答を行おうとしている。</li> </ul>

## 10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全3時間、本時は第3時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先での挨拶を考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の振り返り</li> <li>・要点をまとめる</li> <li>・実習を想定した挨拶を行う。</li> <li>・他者の発表に対しての質問と評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静聴できるように言葉かけを行う。</li> <li>・発表内容の長所を中心に評価する。</li> <li>・発表毎に拍手を促す。</li> </ul>	ABC 発表および質問、評価の内容 行動観察

2	・余暇に友だちと誘ってみよう。	・前回の振り返り ・好きなことを主題にまとめる ・グループの全員を誘うことを想定した発表を行う。 ・他者の発表に対しての質問と評価を行う。	・静聴できるように言葉かけを行う。 ・発表内容の長所を中心に評価する。 ・発表毎に拍手を促す。	A B C 発表および質問、評価の内容 行動観察
3	・社会参加してみよう。	・前回の振り返り ・自分ができそうな取り組みを選択する。 ・自分の好きなことと組み合わせで発表する。 ・他者の発表に対しての質問と評価を行う。	・静聴できるように言葉かけを行う。 ・発表内容の長所を中心に評価する。 ・発表毎に拍手を促す。	A B C 発表および質問、評価の内容 行動観察

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・SDGsというものは何か知ることができる。
- ・自分ができそうなSDGsを選択することができる。
- ・選択した事項について、どのように社会参加できるか発表することができる

### (2) 本時の評価規準

- ・自分の好きなことと社会参加を絡めるという視点から、発表項目を選択することができたか。(A)
- ・考えをまとめ、わかりやすく発表することができたか (B)
- ・他者の発表を聞き、その長所を見つけだそうとすることができたか。(C)

(3)生徒の実態と本時の目標

	生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年、全盲 点字使用</li> <li>・常に意欲的で、経験したことや考えを積極的に発表することができる。</li> <li>・状況に合わせた適切な声量で話すことができる。</li> <li>・他者に同調し、主体性を欠くことにつながる時もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味と設定項目の接点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・他者の発表の良い点を発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をまとめればよいのか助言する。</li> <li>・私語がある場合は近くに寄り静聴するよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表項目を選択することができた。(A)</li> <li>・聞き手を意識した発表をすることができた。(B)</li> <li>・他者の発表を静聴することができた。(C)</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年、全盲 点字使用</li> <li>・自分の考えを表現豊かにまとめることができる。</li> <li>・他者に伝わりやすい声量で発表することに課題がある。</li> <li>・興味関心が薄い場合にはうつむいたままになることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味と設定項目の接点を見つけることができる。</li> <li>・自分が書いたメモを発表することができる。</li> <li>・他者の発表に関心をもつことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにまとめたらよいか助言する。</li> <li>・適宜生徒に発問することで、授業への参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表項目を選択することができた。(A)</li> <li>・聞き手を意識した発表をすることができた。(B)</li> <li>・他者の発表に対して、自分の考えを伝えることができた。(C)</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年、全盲 点字使用</li> <li>・端的に自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・経験したことも多く、自分の考えをまとめ、発表することができる。</li> <li>・他者に伝わりやすい声量で発表することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味と設定項目の接点を見つけることができる。</li> <li>・メモを作り、発表することができる。</li> <li>・他者の発表を、姿勢を正して聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をまとめればよいのか助言する。</li> <li>・私語がある場合は近くに寄り静聴するよう促す。</li> <li>・適宜生徒に発問することで、授業への参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表項目を選択することができた。(A)</li> <li>・自分の考えをまとめ、発表することができた。(B)</li> <li>・他者の発表を静聴することができた。(C)</li> </ul>

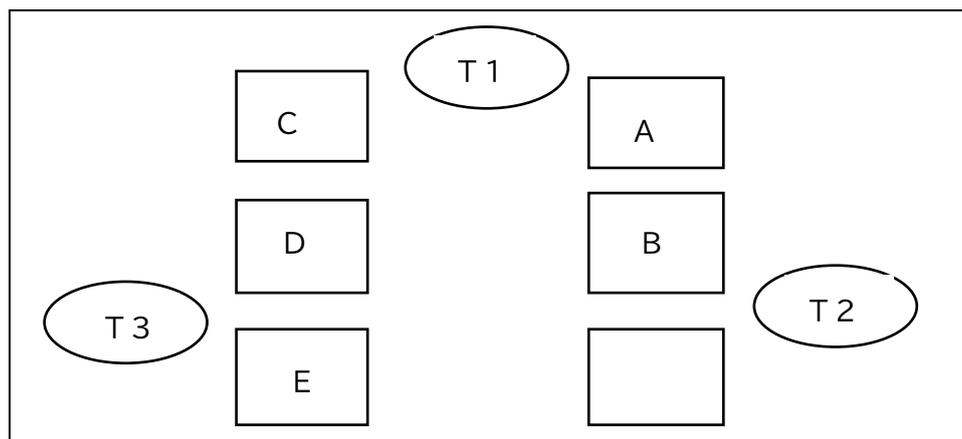
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年、全盲 点字使用</li> <li>・授業に積極的に参加し、自分の意見を発表することができる。</li> <li>・他者の発表を聞き、自分の考えと合わせて思いを伝えることができる。</li> <li>・要旨にそって、自分の考えをまとめていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味と設定項目の接点を見つけることができる。</li> <li>・自分の考えを簡潔に、発表することができる。</li> <li>・他者の発表の良い点を発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をまとめればよいのか助言する。</li> <li>・要旨が大きくなりすぎないように、まとめている内容に対して質問する。</li> <li>・適宜生徒に発問することで、授業への参加を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表項目を選択することができた。(A)</li> <li>・自分の考えを簡潔にまとめ、発表することができた。(B)</li> <li>・他者の発表に対して、簡潔に自分の考えを伝えることができた。(C)</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年、弱視 墨字使用</li> <li>・授業に積極的に参加し、自分の意見を発表することができる。</li> <li>・他者の発表を聞き、自分の考えと合わせて思いを伝えることができる。</li> <li>・他者に伝わりやすい声量で発表することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味と設定項目の接点を見つけることができる。</li> <li>・自分の考えに自信をもって、発表することができる。</li> <li>・他者の発表の良い点を具体的に発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をまとめればよいのか助言する。</li> <li>・発表の内容を適宜確認し、適宜助言を行ったり、評価したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表項目を選択することができた。(A)</li> <li>・聞き手を意識した発表をすることができた。(B)</li> <li>・他者の発表に対して、自分の考えを伝えることができた。(C)</li> </ul>

#### (4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
10分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始まりのあいさつ</li> <li>・前回の復習</li> <li>・これまで自分たちで発表してきた接続詞を使って、昔話を創作し、発表する。</li> <li>・SDGsの説明を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の始まりを意識できるように、必要であれば姿勢を正す言葉かけを行う。</li> <li>・復習項目については、適宜補足説明を行う。</li> <li>・他者が接続詞の書かれたカードと数字のカードを選ぶときは、姿勢を崩さず静かに待つよう言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の発表につなげて、自分の担当部分を発表することができたか。(発表・行動観察)</li> <li>・落ち着いて話を聞くことができたか。</li> </ul>

			(行動観察)
35分 展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの17項目から、自分を取り組めそうな項目を選択する。</li> <li>自分の好きなことを交えて、選択したものをどのように取り組むか発表する。</li> <li>他者の発表を聞き、質問と評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの項目について聞き、内容が難しければ補足説明を行う。</li> <li>発表内容をまとめる時間を決め、その時間内に書ききるように言葉かけを行う。</li> <li>それぞれの発表内容は肯定的な意見を中心に評価する。</li> <li>必ず拍手で発表を終えることができるように促す。</li> <li>一人の発表が終わるごとに、グループで良かった点を出し合い、次の発表につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考えた内容を発表することができたか。(発表・行動観察)</li> <li>落ち着いて話を聞くことができたか。(行動観察)</li> <li>他者の考えを肯定的に受け止め、良かった点を発表することができたか。(発表・行動観察)</li> </ul>
5分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの統一意見として、だれの内容なら一緒に実行できそうか選ぶ。</li> <li>終わりのあいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の発表を選択しやすくするために、端的に内容を説明する。</li> <li>授業の終わりを意識できるように、必要であれば姿勢を正す言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰の意見が一番現実的であったか、選ぶことができたか。(発表・行動観察)</li> </ul>

(5) 教室配置 (正面を上にして、生徒や教員の位置を示す)



# 「理療（人体の構造と機能 生理学）」学習指導案

指導者 福本 大輔

1. 日時 令和2年〇月〇日（〇） 第5時限（13:30～14:20）
2. 対象 高等部専攻科保健理療科 第1学年3名
3. 場所 高等部専攻科保健理療科1年ホームルーム教室
4. 単元名 大単元：排泄  
中単元：蓄尿と排尿  
小単元：蓄尿・排尿

## 5. 単元設定の理由

生理学は、人体の各器官・組織における生命維持機構および機能を理解するための学問であり、その分野は非常に幅広く、基礎から系統的に学習を進めていく必要がある。生徒は、血液中の老廃物の排泄に欠かすことのできない腎臓の基本的な構造・機能については履修済みであることから、血液から尿を生成する過程や仕組み、血液量の調節については理解している。しかし、尿生成後の尿のゆくえ、膀胱による尿の体外への排出などの細かな仕組みについては、毎日数時間ごとにかかる現象で身近なものであるのにも関わらず、その機序についてイメージがつきにくく、理解するのが困難である。

人間にとって「排便」「排泄」というのはホメオスタシスの観点からも重要であり、臨床の現場においても患者の「排便」「排尿」の状態を把握することは、その患者の健康状態を概ね理解することが出来ると言っても過言ではない。また、治療によりこの機能を引き上げ、全身調整を行うことが我々あんまマッサージ指圧師に求められる。

本学級の生徒は、授業中熱心に学習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問する。また、自身の経験談やこれまでに得た知識を伝えてくれることもあり非常に真面目に授業を受けているという印象である。しかしながら、生理学の中ではイメージを描きにくい分野である蓄尿と排尿の仕組みと両者の関係性について、視力に障がいのある生徒が学習する場合、その内容を理解するまでに時間を要する。また、文字だけの学習に留まり誤った解釈を起こす可能性もある。

このことから、医療従事者であるあんまマッサージ指圧師として必要となる正確な知識を身につけ、施術に応用できるようにしたいと考え本単元を設定した。

## 6. 単元の目標

- (1) 腎臓の構造について理解する。
- (2) 腎臓の働き（再吸収・分泌）について理解する。
- (3) 尿の組成について理解する。
- (4) 体液の調節について理解する。
- (5) 蓄尿・排尿の仕組みについて理解する。

## 7. 指導計画（全15時間）

腎臓の構造と働き	8時間
尿の組成	1時間
腎臓による体液の調節	3時間
蓄尿と排尿	3時間

※本時は「蓄尿と排尿」の3時間目にあたる。

## 8. 本時設定の理由

蓄尿と排尿は日常的に生じる生理現象でありホメオスタシスの観点からも重要な役割を担っている。しかしながら、その機序が複雑であり、文字だけの学習では正確な知識の定着が期待できない。そのため、模型の使用や分かりやすい説明などより工夫を凝らした学習指導が必要になる。

また、本時では、前時までに履修した尿管・膀胱・尿道の構造を踏まえ、この蓄尿と排尿の機序、仕組みについて学習するが、人間が生命を営む上で「老廃物除去」の観点から重要な働きであることには間違いない。

このことからあんまマッサージ指圧師を目指す者として着実に正しい知識を身につけてもらいたいと考え本時を設定した。

## 9. 本時の目標

- (1) 蓄尿・排尿に関わる各器官の解剖学的構造を理解する。
- (2) 蓄尿の機序を学習することで、その仕組みを理解する。
- (3) 排尿の機序を学習することで、その仕組みを理解する

## 10. 本時の展開

時間	指導内容	授業者の活動	生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	【全体指導】 前時の復習と本時の学習内容の確認	① 前時の学習内容について発問する。 <発問内容> ・尿管は何と何をつないでいる管か。 ・尿管は何本あるか。 ・尿管の平滑筋の走行はどうなっているか。 ・膀胱はいくつあるか。 ・膀胱の平滑筋は何層構造か。 ・尿道は何本あるか。 ・尿道にある括約筋の名前は何か。 ・内尿道括約筋は横紋筋、平滑筋どちらか。 ・外尿道括約筋は横紋筋、平滑筋どちらか。 ② 前時の学習内容を踏まえ、本時の学習内容について簡単に説明する。 <説明> ・本時では、各器官の神経支配および蓄尿と排尿の機序について学習する。	① 授業者の発問に答える。  ② 授業者の説明を聞き、本時の学習内容を知ること、見通しを持って授業に参加する。	① 答えられない場合は、ヒントを与え答えを導き出す。  ② 本時の学習内容を理解しているか、確認する。

<p>展開 1 10分</p>	<p>【全体指導】 膀胱と尿道の神経支配</p>	<p>① 前時で学習した膀胱と尿道の解剖学的構造を踏まえ、それらの神経支配について説明する。 &lt;説明&gt; ・排尿筋と内尿道括約筋には副交感神経線維である骨盤神経、交感神経線維である下腹神経が支配している。 ・排尿筋に対しては、骨盤神経の活動亢進で収縮、下腹神経の活動亢進で弛緩する。 ・内尿道括約筋に対しては、骨盤神経の活動亢進で弛緩、下腹神経の活動亢進で収縮する。 ・排尿筋と内尿道括約筋では神経支配が拮抗している。 ・外尿道括約筋だけは対性運動神経に属する陰部神経の支配を受け、活動亢進により収縮する。 ・外尿道括約筋は随意筋である。</p>	<p>① 授業者の説明を聞きながら要点をまとめる。</p>	<p>次のことに留意して説明する。 ・外尿道括約筋だけは対性運動神経に属する陰部神経の支配を受け、活動亢進により収縮する。 ・外尿道括約筋は随意筋である。</p>
<p>展開 2 20分</p>	<p>【全体指導】 蓄尿と排尿</p>	<p>① 配付プリントを読み上げながら蓄尿の機序を説明する。 &lt;説明&gt; ・受容器は膀胱壁にある伸展受容器である。 ・求心路は骨盤神経である。 ・中枢は腰仙髄である。 ・遠心路は骨盤神経と下腹神経である。 ・下腹神経の活動亢進により、排尿筋の弛緩、内尿道括約筋の収縮が起こる。 ・排尿筋が弛緩することで膀胱内圧上昇を抑え、膀胱内に尿がたまる。 ・同時に陰部神経が興奮し、外尿道括約筋が収縮する。 ・膀胱内の尿量が150mlほどに達すると尿意を感じる。 ② 配付プリントを読み上げながら排尿の機序を説明する。 &lt;説明&gt; ・受容器は膀胱壁の伸展受容器である。</p>	<p>① 授業者の説明を聞きながら、蓄尿の機序をイメージし、膀胱に尿が貯まることを理解する。</p> <p>② 授業者の説明を聞きながら、</p>	<p>① 排尿筋が弛緩するイメージがつきにくいので、「膀胱が膨らむ」というイメージを持たせるようにする。</p> <p>② 蓄尿の機序と似ているが、排尿筋・内尿道括約筋</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・求心路は骨盤神経である。</li> <li>・中枢は腰仙髄である。</li> <li>・遠心路は骨盤神経と下腹神経である。</li> <li>・骨盤神経の活動亢進により、排尿筋の収縮、内尿道括約筋の弛緩が起こる。</li> <li>・排尿筋の収縮により、膀胱内の尿が体外に押し出される。</li> <li>・同時に陰部神経の活動が低下し、外尿道括約筋が弛緩する。</li> </ul> <p>③蓄尿・排尿の障害について補足する。</p> <p>&lt;説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄尿・排尿は脳・脊髄・末梢神経の相互作用により調節されており、このいずれかが障害を受けると、排尿困難および尿失禁を生じることになる。</li> <li>・排尿困難の原因として、膀胱炎、前立腺肥大、椎間板ヘルニアなどが挙げられる。</li> <li>・尿失禁の原因として、脳血管障害、アルツハイマー病、パーキンソン病などが挙げられる。</li> </ul>	<p>排尿の機序をイメージし、膀胱内の尿が体外に排出されることを理解する。</p> <p>③ 授業者の説明を聞きながら、蓄尿・排尿の重要性について理解する。</p>	<p>の収縮・弛緩が逆の動きをしていることに着目させる。</p>
展開 3 10分	【個別指導】 自作模型を使用した蓄尿・排尿の機序の説明	① 自作模型に触れさせ、蓄尿・排尿の機序について理解を深めさせる。	① 模型に触れながら授業者の説明を聞き、蓄尿・排尿の機序の理解を深める。	①実際の泌尿器とは形態が異なり、あくまで模型であることを伝える。
整理 5分	【全体指導】 本時の学習内容の振り返り	① 本時の学習内容について発問する。 <発問内容> ・骨盤神経の活動が亢進すると、排尿筋、内尿道括約筋はどうなるか。 ・下腹神経の活動が亢進すると、排尿筋、内尿道括約筋はどうなるか。 ・外尿道括約筋の支配神経は何か。 ・外尿道括約筋は自分の意志で調節できるか。	① 発問に答えながら、本時の要点を整理する。	① 発問に答えられない場合、ヒントを与え答えを導き出す。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄尿の際は、骨盤神経、下腹神経どちらの神経が興奮するか。</li> <li>・排尿の際は、骨盤神経、下腹神経どちらの神経が興奮するか。</li> <li>・蓄尿と排尿の受容器、求心路、中枢はどこか。</li> </ul>		
--	--	--	--	--

### 11. 評価の観点

- (1) 骨盤神経の活動が亢進した時の排尿筋・内尿道括約筋の動きを答えることができる。
- (2) 下腹神経の活動が亢進した時の排尿筋・内尿道括約筋の動きを答えることができる。
- (3) 蓄尿の際、骨盤神経、下腹神経どちらの神経が興奮するか答えることができる。
- (4) 排尿の際、骨盤神経、下腹神経どちらの神経が興奮するか答えることができる。

### 12. 生徒の実態

A生：墨字使用。眼疾；錐体ジストロフィー。視力；左右とも0.04。視野の中心が見えないので周辺視野を上手に使いながら学習している。強度の羞明があり、教室に少しでも日光が入るとまぶしさで文字を読むことが困難となる。学習に当たっては、拡大読書器を使用しながら教科書や資料の文字を確認している。得意な分野では積極的に発言し、自身の経験談や知識について伝えようという意欲が伺える。その一方、少し根気や持久力に欠ける部分があるので、継続的に学習に向かわせるための対策が必要となる。

B生：墨字使用。眼疾；網膜色素変性症。視力；左右とも0.1。視野欠損が高度で中心視力のみ残っている。学習に当たっては、携帯用拡大読書器を使用しながら教科書や資料の文字を確認している。また、ICレコーダーで授業の音声を録音し、復習の際に活用している。とても熱心に学習に取り組み、発問に対しても正確に答えることができる。何事にも興味を持ち、新たな知識を習得することに対して楽しさを見出している様子が伺える。

### 13. 準備物

使用教科書：「生理学」（東京点字出版所 発行 盲学校理療教科用図書編纂委員会 編）  
 使用教材：まとめプリント、自作模型

### 14. 座席配置

黒板に直面して、窓側（左側）にA生、廊下側（右側）にB生が座っている。